

令和3年度 矢作川流域圏懇談会

懇談会通信綴り

令和3年度 矢作川流域圏懇談会

懇談会通信綴り

～市民部会～

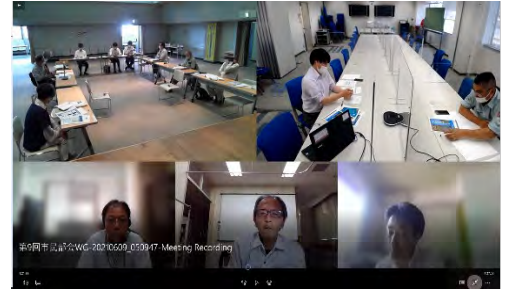


発行日：令和3年6月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第9回市民部会WGを開催しました！

第9回市民部会WGを、緊急事態宣言発出期間中における新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で、豊田市にて開催しました。令和3年度第1回目の市民部会では、今年度実施予定のバスツアー、公開講座について具体的な計画を協議しました。



日時：令和3年6月9日（水）14:00～16:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 2階 大会議室

参加者：16名（内オンライン参加6名） *事務局含む

◆主な会議内容

1. 今年度の矢作川流域圏懇談会の進め方



今年度の矢作川流域圏懇談会の進め方について、緊急事態宣言発出期間（まん延防止等重点措置発出期間を含む）中、または、平常時における開催方針の説明を行いました。今回のWGは、緊急事態宣言発出中であることから、対面形式の人数を最小限とし、オンラインに重点を置いた形式で実施しました。

2. バスツアーの計画について



新型コロナウイルス感染拡大防止のため順延していたバスツアーについては、令和3年11月に以下の内容で実施する方針となりました。なお、実施の最終決定については、9月に新型コロナウイルスの感染状況から判断することとします。

【バスツアーの計画】

- ・ 実施時期：2021年11月25日（木）～26日（金）
- ・ 行程計画：1日目（11/25） 9:00 豊田市駅出発→18:00頃 豊田市駅解散
山部会の提案：水源涵養モニタリング調査サイト、奥矢作川レクリエーションセンター
川部会の提案：阿摺ダム、阿摺ダム下流部
- 2日目（11/26） 9:00 豊田市駅出発→17:10頃 豊田市駅解散
川部会の提案：明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川
海部会の提案：矢作川浄化センター、東幡豆海岸

3. マイクロプラスチック公開講座の計画について



今年度は、7月にマイクロプラスチックに関する公開講座、10-11月にネオニコチノイド系農薬の公開講座を開催します。WGでは、7月31日に開催するマイクロプラスチックに関する公開講座の内容、講座の進行、チラシ配布方法、情報発信方法等について話し合いました。

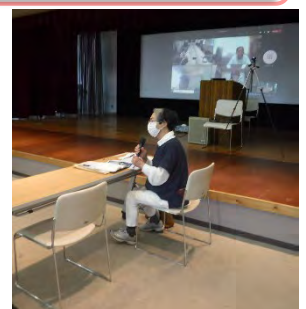
【第1回公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」についての内容】

- ・ 開催日時：2021年7月31日（土） 15:00～17:00
- ・ 開催場所：ZOOMによるオンライン開催。メイン会場は、kabo.（豊田市）。
- ・ 講座の内容 第一部：挨拶・問題提起 第二部：千葉先生による講義 第三部：ディスカッション 第四部：閉会挨拶
- ・ 主催：矢作川流域圏懇談会
- ・ 公開講座の周知方法：チラシを地域部会WGで配布。各地域部会メンバーの所属先等に周知。SNS等による周知。

4. その他（10年誌の活用について・根羽村「森の交流館」について）



- ・ 2020年12月発行の矢作川流域圏懇談会10年誌の活用について、配布状況や今後の展開について話し合いました。
- ・ 2020年4月に開館した根羽村「森の交流館」について、設立の背景や目的、施設の内容、今後の活用等について、説明いただきました。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●バスツアー計画について

- ・バスツアーで説明していただく方々への確認はどうか。(光岡)
 - ▶ 説明していただく全ての方々の確認済み。9月に最終判断することも了承を得ている。(事務局)
- ・マイクロバスは2台用意する。1台25人乗りなので、半分となる場合は1台11~12名の乗車となる。(事務局)

●マイクロプラスチック公開講座について

【公開講座の情報発信について】

- ・チラシ1000部の印刷が完成するのはいつごろか？(光岡)
 - ▶ 6/14の海部会WGまでにチラシを完成させ、配布できるようにする。6/22川部会WG、6/25山部会WGでもチラシを配布する予定。チラシは地域部会で希望部数を渡していく。(事務局)
- ・チラシの配布と並行して、HP上で公表したものを周知していきたい。いつから周知を開始してもよいのか？(近藤)
 - ▶ 6/14海部会WGで配布することから、その日を公開開始としたい。(事務局)
 - ▶ チラシを公開する流域圏懇談会HPのアドレスをメーリングリスト等で拡散していくことで進める。(近藤)
- ・企画は市民部会でやっているが、主催は「矢作川流域圏懇談会」がよいと思う。(近藤)
- ・女性が集まる団体などで、マイクロプラスチックとネオニコチノイドの公開講座をやることを伝えている。かなり関心が高いので、崇化館交流館や岡崎市などにチラシを置くとよい。(沖)
- ・NHKでマイクロプラスチックなど化学肥料の問題を取り上げていたことから反響は大きいと思う。(山本薫)
- ・SNS発信するときは、ハッシュタグを付けると効果が大きいという話を聞いた。(中田)

【公開講座の進行について】

- ・公開講座を実施する時に、千葉先生はどこから、どういう形で講義をされるのか？(光岡)
 - ▶ 豊田市のkabo.がメイン会場となるので、千葉先生にはそこで講義していただき、ZOOMで配信する。(事務局)
- ・オンライン参加の方々の意見を聞くことは可能か？(光岡)
 - ▶ ZOOMのチャットを使って参加者の意見を集める。学生の協力も検討する。(事務局)
 - ▶ 500名参加したら相当な規模の講座となる。事務局でチャット専用の係を設置する必要がある。出た意見の中から取り上げる質問や意見をセレクトして、千葉先生に投げかける役割が必要となる。(近藤)
- ・第三部のディスカッションでは、いろいろな議論があると思うので、やりとりする人を用意しておく。たとえば、「別な視点でどうですか？」という感じでそれに答える人、コメンテーターのような人を予定しておく。(近藤)
- ・第三部のディスカッションでは、ディスカッションを進行する人を配置するほうがよい。(近藤)
- ・第三部のディスカッションの進行役を配置する。また、全体の進行役も必要となる。(光岡)
 - ▶ 全体の進行役は市民部会会長がよいと思う。第二部・第三部の講演に関係するところは近藤が進行する。(近藤)
 - ▶ 全体の司会と第一部は光岡さん、第二部・第三部の進行は近藤さんがよい。(山本薫)

【公開講座後も含めた展開について】

- ・公開講座後も含めて、講座に参加した方々の意見とかの受け皿としてLINEなどが利用できればよい。(山本薫)
- ・流域圏懇談会の活動や取組に参加したいと思った人を募集するサイトの設定などについて、今後検討していくことが重要かと思う。(近藤)
 - ▶ 事務局側としては、LINEはセキュリティ問題があるので事業として導入・運営するのは難しい。流域圏懇談会とは別に管理者を置いて展開するのであれば可能かと思う。(事務局)
 - ▶ LINEは、100名を越える場合はなじまない可能性がある。他には、InstagramやFacebookなど。(近藤)
 - ▶ 流域圏懇談会として、公開講座を通じて関心を持った方々を巻き込む方法等を検討する必要がある。(光岡)
 - ▶ 流域圏懇談会としてマイクロプラスチック問題をどうしていくかは、さらに議論が必要。公開講座を通じて関心を持った方々と繋がることが重要第だと思う。(山本薫)
 - ▶ 公開講座を通じて繋がった方々の受け皿は、流域圏懇談会の中では市民部会だと思う。(沖)
 - ▶ 公開講座後の受け皿としてLINEも一つのツールとして、その活用を講座当日で紹介することで進める。(光岡)

●その他

- ・10年誌から矢作川流域圏での活動に驚きの反応が多い。今日は新潟県まで10年誌を送った。(沖)
- ・多摩川の関係者では、地域づくりやまちづくり等の活動において参考になると喜んでいただいた。(中田)
- ・10年誌の増刷の予定はどうか？(光岡)
 - ▶ 予算などから増刷について検討していく。(事務局)
- ・根羽村「森の交流館」は、庄内川・土岐川の流域圏活動の一つとして作った。矢作川流域圏の方々にも利用していただきたい。(溝口)

今後の予定

■市民部会WG 日時：2021年8月18日(水) 14:00~16:00 豊田市崇化館交流館



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@milit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R3 市民部会編 vol. 2



発行日：2021年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第10回市民部会WGを開催しました！

第10回市民部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。令和3年度第2回目の市民部会では、7月に実施した公開講座の総括と第2回公開講座について協議しました。また、今年度実施のバスツアーについて協議しました。



日時：2021年8月18日（水）13:40～15:30

会議場所：豊田市崇化館交流館 第2会議室

参加者：12名（内オンライン参加5名） *事務局含む

◆主な会議内容

1. 公開講座の総括と今後の計画について

(1) マイクロプラスチック公開講座（第1回公開講座）開催結果

7月31日に開催した第1回公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」の状況を報告しました。公開講座での良かった点や反省点などについて話し合い、次の公開講座に活かしていくこととしました。

【マイクロプラスチック公開講座の状況】

- ・ 開催日時：2021年7月31日 15:00～17:00
- ・ 参加人数：延べ98名（ZOOM参加者：77名、会場参加者：21名）
- ・ 参加地域：13都道府県

(2) ネオニコチノイド系農薬公開講座（第2回公開講座）の計画

ネオニコチノイド系農薬をテーマに、第2回公開講座の開催について協議し、以下の内容が決まりました。

【ネオニコチノイド系農薬公開講座の計画】

- ・ 開催日：10～11月の土日、講師の都合を優先して決めていく。
- ・ 開催方式：ZOOMウェビナーによるリモート講座
- ・ 広報：9～10月にチラシを作成し、配布・配信する。

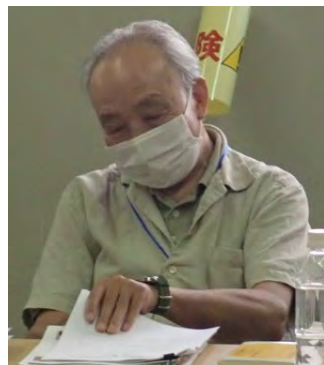
2. バスツアー計画について

11/25～26で実施予定のバスツアーについて、新型コロナウイルス感染状況を勘案し、実施の可否も含めた話し合いを行いました。

市民部会としては、新型コロナの現状を勘案し、当面はバスツアーの募集は行わず、9月の感染状況から実施するかどうかを判断することとします。なお、中止とした場合は、来年度に再度バスツアーを計画することとしました。

3. その他

- ・ 第2回公開講座の進行、役割分担を協議するための市民部会打合せを、公開講座の2～3週間前に行うこととしました。
- ・ 10月2～3日に開催される「いい川・いい川づくりワークショップ」について説明がありました。矢作川流域圏懇談会としての関わり方を検討していきます。
- ・ 矢作川感謝祭（9/5）と三河湾大感謝祭（10/24）について、内容や開催の見通し等の説明がありました。現時点では、開催する方向で進んでいますが、コロナの状況から小規模な開催になる見込みです。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●公開講座の総括と今後の計画について

(1) マイクロプラスチック公開講座(第1回公開講座)開催結果

- ・快適に講演やディスカッションを聞くことができよかったと思う。(山本孝)
- ・YouTubeで公開でき、啓蒙になると思う。農業関係者にも見てもらえるとよい。(山本薫)
- ・YouTube動画の内容について、講演者である千葉先生の確認をとるほうがよい。現在確認中。(近藤)
- ・千葉先生の話しを身近に聞け、四日市大学の学生が研究に協力されていることなどがわかりとてもよかった。(沖)
- ・実際の現場での調査の話しとマイクロプラスチックの話しの方があり、非常にわかりやすかった。(中田)
- ・山・川・海・市民の各部会を繋げられたことが成果だと思う。また、懇談会から外への発信ができたことも成果だと思う。100名ほど参加があったが、半分以上はオンラインによる外部の方々参加だった。(近藤)
- ・四日市大学や岐阜大学の学生など若い人たちにスタッフとして関わってもらえたことは一つの成果だと思う。(近藤)
- ・スタジオにおけるカメラワークやマイク設置などで改良の余地がある。スタジオは会議室のような部屋のほうがよい。今回は座る必要があったのと、外部音など少々やりづらさを感じた。(光岡・松沢)

(2) ネオニコチノイド系公開講座(第2回公開講座)の計画

<公開講座の進行等>

- ・第2回公開講座は、10~11月の土日で候補日を設定し、講師に都合を確認する。(光岡)
- ・第2回公開講座もZOOMでのオンラインで実施することになると思う。第1回のノウハウを活かしていく。(光岡)
- ・スタジオは、崇化館のような会議室が機能的でやりやすいと思う。(光岡・近藤・松沢)
- ・講演者がどこから参加するかは、コロナの状況などを勘案して検討する。司会者・懇談会パネラーなどはスタジオ参加のほうがよいと思う。(松沢)
- ・スタッフとして人間環境大学や流域の大学の学生に関わってもらい、外に広げていくことを進めたい。(近藤)
- ・ディスカッションでは、登壇者(パネラー)となってくれる人を用意するほうがよい。登壇者の候補については、講師と協議して決める。また、流域圏懇談会からも登壇をお願いしたい。(近藤・松沢)
 - ▶ 農業関係で山本(薫)さん、市民関係で沖さん、鳥類など生物関係で高橋さんなど。(松沢)
 - ▶ 学術的な視点でパネラーとなってくれそうな方も検討するとよい。(光岡・近藤)
- ・最初の挨拶は市民部会座長、最後の挨拶は副座長が行う。流域圏懇談会へのお誘い等は事務局が説明する。(光岡)
- ・ネオニコチノイド系農薬の影響については、あまりアカトンボに絞りにすぎないほうがよい。ニホンミツバチへの影響など全体的な動きも話題の中に織り込むのはどうか。(近藤)
 - ▶ ネオニコチノイド系農薬問題の発端はミツバチなので、ディスカッションの中に盛り込んでいくとよいかと思う。川の中の生態系などいろんな事例をディスカッションで取り上げるとよいかと思う。(松沢)
- ・公開講座の内容を流域圏懇談会の3部会でどういうふうに取り上げてもらうか、関わっていけるかが課題。(光岡)
- ・ネオニコチノイド系農薬の講座は、特に農業系の方々に参加していただきたい。(山本孝)
- ・公開講座のYouTubeでの公開について、講師に事前の了解をとるほうがよい。(光岡)

<その他>

- ・ネオニコチノイド系農薬について、東海農政局と環境省に意見を聞いたのでお知らせする。(事務局)
 - ・東海農政局では、ネオニコチノイド系農薬の人体や環境への影響は少ないと考えているが、今年度にネオニコチノイド系農薬の再評価を行う予定とのこと。
 - ・環境省では、チラシの説明で見解と異なるところもあるので、断定された事実と受け止められないような表記を検討してほしいとのこと。農薬被害が懸念される場合は、使用方法などの見直しが行われることになるとのこと。
 - ▶ チラシ案の説明文で、「〇〇といった研究がある」「研究では〇〇」等の表記を加えるほうがよい。(事務局)
 - ▶ 「〇〇という見解もある」などの表現でよいと思う。生態系への影響などは曖昧にするのではなく、見解として明示することでよいと思う。(山本薫)
 - ▶ 講師の方に自由に自分の見解を述べていただくことで問題はないと思う。(山本孝・光岡)

●バスツアー計画について

- ・コロナ禍にあって、国土交通省の事業として実施のハードルが最も高いのがバスツアーと思う。(近藤)
- ・国土交通省の事業であることを考えると、この時期に募集をかけるのも考えた方がよい。(沖)
- ・参加人数が少なくなることが問題。広く募集をかけて流域圏懇談会を知ってもらうことも大きな目的と思う。(近藤)
- ・バスツアーは成功させたいので、11月はパスして、状況をみながら再検討するほうがよい。(山本薫)
- ・まだ3ヵ月あるので何とも言えないが、来年4~6月ごろに延期するほうがよいかもしれない。(高橋)
 - ▶ バスツアーはコロナの状況をみて、あらためて設定をし直す。募集をかけることも止めておく。候補地や工程は現計画を活かしていく。(光岡)

今後の予定

■市民部会 WG 日時：令和3年10月8日(金) 14:00~16:00 豊田市崇化館交流館

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@milit.go.jp) までお送りください。



発行日：2021年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第11回市民部会WGを開催しました！

第11回市民部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。令和3年度第3回目の市民部会では、7月に実施した第1回公開講座の結果報告、11月に実施する第2回公開講座の開催計画、三河湾大感謝祭の開催方針等について協議しました。



日時：2021年10月8日（金）14:10～15:45

会議場所：豊田市崇化館交流館 大会議室

参加者：13名（内オンライン参加4名） *事務局含む

◆主な会議内容

1. 公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」開催結果報告



7月31日に開催した第1回公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」の開催結果が報告されました。講座への参加者は98名、参加地域は13都道府県に及びました。公開講座の様子は、YouTubeで公開しています。

2. 公開講座「アカトンボが危ない！」開催計画について



ネオニコチノイド系農薬をテーマとした第2回公開講座の開催について協議し、以下の内容が決まりました。
【ネオニコチノイド系農薬公開講座の計画】

- ・開催日時：2021年11月27日（土）15:00～17:00
- ・開催方式：ZOOMウェビナーによる完全オンラインのリモート講座。スタジオ機能として三重県四日市市のトンボ研究所に主催者PCを配置する。
- ・プログラム
15:00～15:05 第1部 挨拶：光岡氏（矢作川流域圏懇談会市民部会座長）
15:05～16:10 第2部 講演：苅部治紀氏（神奈川県立生命の星・地球博物館）
16:10～16:55 第3部 ディスカッション：苅部氏・登壇者（4～5名） 司会進行：松沢氏
進行：①各種生物群の現状とネオニコ系農薬→②農業や市民生活とネオニコ系農薬→③質問への回答→④まとめ
16:55～17:00 第4部 おわりに：山本氏（矢作川流域圏懇談会市民部会副座長）
- ・広報：10月にチラシを作成し、配布・配信する。公開講座の状況は、後日YouTubeにより動画配信する。

3. 三河湾大感謝祭の開催方針について

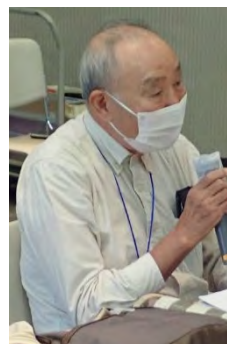


10月24日に開催される「第8回 三河湾大感謝祭」について、矢作川流域圏懇談会としての対応等を話し合いました。その結果、海部会の三河湾に対する考え方を整理し情報発信する、第2回公開講座をPRする、矢作川のクイズなどで矢作川を知ってもらう、ペーパークラフト等を配布する などが決まりました。

4. 第13回 いい川・いい川づくり ワークショップ in 中部の開催報告



10月2日に開催された「第13回 いい川・いい川づくりワークショップ」の開催及び参加状況が報告されました。矢作川流域圏懇談会は、「これまでの10年+これからの10年」として、これまでの活動内容、次の10年の課題等について発表し、グループワークに参加しました。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」開催結果報告

- 大きな成果は、岐阜大学と四日市大学の学生が手伝ってくれたこと。これからの流域圏懇談会を広く、世代を越えて認識する一つのスタートに立てた意義は大きいと思う。(近藤)

●公開講座「アカトンボが危ない！」開催計画について

- ディスカッションでは、話しが煩雑にならないようにテーマを決めて進行させる。トンボ関係で2名程度、鳥関係で高橋さん、ミツバチ関係で矢作川研究所、農業関係で山本さん、市民生活関係で沖さんにパネリストとして登壇していただき、話題提供をお願いしたいと考えている。(松沢)
- ▶市民生活関係の話題提供者としては、「農業を考える会」の伊藤玲子さんをお願いしており、了解も取れている。(沖)
- ▶養蜂については、農家が実践していることをお話する。稲作については、イネにつくカメムシの被害が大きいので、米を農協に出す以上、農薬使用は必要となる。そのあたりをお話する。(山本)
- ▶ミツバチ関係については、矢作川研究所の研究内容を確認してから検討する予定。(松沢)
- ▶パネリストという位置づけではなくても、ディスカッションに入ってもらおうほうがよい人もいる。その時にパネリストに上げていくという方法も取り入れるとよい。(近藤)
- ・ディスカッションは45分なので、話題提供は長くて1人3~5分程度で、現状をお話しいただく。(松沢)
- ・完全オンラインということは、全員PCでの参加ということか？(光岡)
- ▶公開講座の方式について。主催者PCを配置するスタジオを設置し、そこに司会者PCも配置する予定。(松沢)
- ▶登壇者でPC等に不安がある場合は、スタジオで参加すれば問題はない。(近藤)
- ▶当日はスタジオでの参加としたい。(山本・沖・高橋)
- ・参加者からの質問は主催者PCでチェックし、司会者が整理して、講師やパネリストに答えていただく。(光岡)
- ・YouTubeによる配信について。講演の中で未発表データ等がかなり出てくると思われることから、データの扱いなど配信方法は検討するほうがよい。(松沢)
- ▶YouTubeの生配信はやらなくてもよいと思う。YouTube配信は、編集してから配信する形式がよい。(近藤)
- ▶YouTube配信については、講師の了承を得た上で配信する。(光岡)
- ・チラシの配布について。第1回公開講座では、岡崎市図書館、全国川ごみネットワーク、三河湾淡水生物ネットワークなどに配布していただいた。必要枚数を3部会座長に確認し、10~11月の各部会で配布する。(星)
- ▶愛知・川の会など、基本的にメールで送る予定。会にはお年寄りもおられるので、紙での配布も行う。(近藤)
- ▶市立図書館、市民交流センターなどに置いていただき、市民に広くお知らせする。(沖)
- ▶西三河野鳥の会は、画像を会長か私の所に送ってもらえば、会員に回ると思う。(高橋)

●三河湾大感謝祭の開催方針について

- ・第2回公開講座のPRはやらなければいけない。また、印刷が間に合えば、10年誌を置きたい。(近藤)
- ・チラシを見ると「三河湾はいい海」という感じだが、海部会から言えば、三河湾は水産の状況が悪く、危機的な状況にある。三河湾の現状を問題提起として出してほしい。(井上)
- ▶豊かな海という幻想に対して現実を見せることは重要。海部会が中心となって情報発信するべきと思う。(近藤)
- ▶40年以上前の三河湾は、「365日赤潮が発生していて、魚が育たない」というイメージ。チラシを見ると、「三河湾はきれいになった」という感じで、問題点が複雑になってきていると感じる。(沖)
- ・コロナの関係で、イベント開催の制限はどうか？(光岡)
- ▶愛知県では、イベントの規模はあまり大きくしないという方針はあるが、特に制限はない。(星)
- ・昨年度は、矢作川に関するクイズを作り、クイズに答えたらプレゼントをお渡しした。好評だった。(中田)
- ▶国土交通省のほうで、魚と災害対策車のペーパークラフトを用意する。(佐藤)

●第13回“いい川・いい川づくり”ワークショップ in 中部 の開催報告

- ・見逃した方のために、配信用のYouTube動画を作成中。2日間のドラマをぜひ見ていただきたい。イベントの企画や実行における楽しさや苦しさ、流域のつながりにもつながっている。(近藤)
- ・これからの課題などでいろいろ議論があった。矢作川流域圏懇談会にもつながる課題や解決案など模索できたのではないかと考えている。(星)
- ・今回はハイブリットという形で、オンラインで会場をつないだ。オンラインだからできたこともあり、良さが活かされたのではないかと思う。会場は若い世代の参加が多かった。(星)

今後の予定

■市民部会まとめの会 日時：2021年12月8日(水) 14:00~ 豊田市崇化館交流館

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



発行日：2021年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第3回市民部会まとめの会を開催しました！

市民部会まとめの会では、今年度の市民部会の取り組みのふりかえりと、次年度に向けた目標について意見交換を行いました。今年度は、2回の公開講座を開催し、流域連携イベントとして2つのイベントに参加しました。

日時：2021年12月8日（水）14:00～16:00

会場：豊田市崇化館交流館 大会議室

参加者：15名（内オンライン参加7名） *事務局含む



◆主な会議内容

1. 今年度のふりかえりについて



今年度の活動目標とした「山・川・海合同のバスツアーの企画」「公開講座の実施」「流域連携イベントによる情報発信手法の検討」について、実施状況が報告され、今後の課題等について話し合いました。

【山川海合同のバスツアーの企画】

11月の実施に向け準備を進めてきましたが、新型コロナウイルスの再拡大を考慮し、次年度に延期を決定しました。

【公開講座の実施】

第1回公開講座は、マイクロプラスチック問題をテーマに、7/31に実施しました。第2回公開講座は、ネオニコチノイド系農薬問題をテーマに、11/27に実施しました。公開講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、ZOOMウェビナーによるリモート講座形式としました。

話し合いでは、2回の公開講座に関する評価から、来年度以降の公開講座の実施や課題、次回公開講座の内容、外部との連携や情報発信方法等について協議しました。

【流域連携イベントによる情報発信手法の検討】

当初「矢作川感謝祭」「三河湾大感謝祭」の2つのイベントを予定していましたが、矢作川感謝祭は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。一方で、新たな流域連携イベントとして「いい川・いい川づくりワークショップ」に参加し、矢作川流域圏懇談会の活動を全国にPRしました。

2. 次年度に向けた目標



次年度以降の公開講座等の勉強会、今年度実施を見送ったバスツアーについて、次年度の方針や目標を協議しました。

【公開講座等の勉強会の実施について】

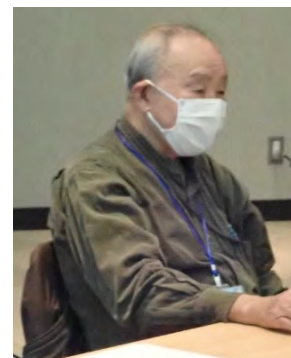
今年度実施した公開講座は、流域での問題点や課題を共有し、外に流域圏懇談会の活動を広げていくという点で、非常に有意義であることがわかりました。次年度以降も流域の問題点や課題について公開講座等の勉強会を実施していくことになりました。テーマは、防災や農業、各種環境問題など流域展開できるテーマを設定していくことで進めていきます。

【バスツアー】

バスツアーは、計画通り次年度に実施する方向で進めていきます。ただし、実施時期や規模については、新型コロナウイルスの状況をみながら具体化していきます。

【その他】

次年度に向けた目標に関する提案として、流域圏懇談会と愛知県各農協とのつながりをもつこと、人間環境大学など新しいつながりを進めていくこと等の提案がありました。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●公開講座について

◆公開講座のふりかえり

- ・ コロナ禍の2年間、公開講座というトップクラスの取り組みを実行してきたことは評価するべきと思う。(近藤)
- ・ 公開講座は大成功であり、勉強になった。アカトンボも何ヶ所かでカウントしている。(野田)
- ・ 2回の公開講座は、たいへんすばらしく、得るものがあり、今後の課題に対するきっかけになった。(山本薫)
- ・ 第2回公開講座では、トンボ研究者だけではなく、鳥の研究者、農業関係者、市民活動の方が加わったことにより話しの展開が広がった。(松沢)
- ・ 市民部会で2回の公開講座をもてたのはすごいことだと思う。世間よりも一歩進んだ講座を実施していることに対して、感謝をもって認識されていることがうれしく思う。市民部会だから公開講座を開催できたと思う。(沖)
- ・ ハマシギが1990~1995年の間に激減したところにネオニコチノイド系農薬が一般化したということに気づいた。非常に勉強になった。(高橋)
- ・ 講師・パネリストの研究や活動をベースにストーリーを組んだことで、スムーズに進行させることができた。(松沢)

◆今後の勉強会、公開講座に向けて

- ・ 勉強会は、流域圏懇談会と市民をつなぐツールとして継続していきたい。(山本孝)
- ・ 流域の課題や問題を市民部会で話し合い、必要なものについては、公開講座などを実施していきたい。(山本薫)
- ・ 広範囲の方々に参加していただくためには、Webを併用していくほうがよい。(光岡)
- ・ 講座を通じて、さまざまところで取り組みが広がってきている。講座をやったことにより何が生まれたかを考え、講座後の反響や効果も見えていく必要がある。(近藤)
- ・ 川ごみサミットのように、農水省や環境省など省を跨いだところで公開講座などできないかと思う。(沖)
- ・ 社会の中で起こっていることをどう考えていくか。懇談会で10年考えてきたことを、もう一度具体的にどうするかを次の10年で検討していくことになるのかと思う。(近藤)
- ・ いろいろな分野の方が、一つの土俵に集まるとおもしろい。流域圏懇談会の特徴を活かせればインパクトのあるメッセージを発信できると思う。(松沢)
- ・ 扱うテーマや拡散の仕方によって参加者も違ってくるので、続けていけばすごく広がっていく。よいテーマで議論をすれば、多様な人がつながる。山・川・海がつながる。(近藤)
- ・ 公開講座のテーマは、流域問題として展開できるテーマがよい。流域圏懇談会として扱いやすいと思う。(松沢)
- ・ 流域圏懇談会には多岐に渡る分野の専門家がいる。流域圏懇談会の中から講師を選ぶというのもよいと思う。(中田)
- ・ 流域圏懇談会メンバーからの講師選定は、バスツアーも含め、よい機会になると思う。(光岡)

◆次回以降の勉強会、公開講座のテーマについて

- ・ 2022年は、「47災害」から50年になる。節目の年なので、土砂災害について議論してもよいかと思う。(近藤)
 - ▶ 47災害から土石流などを取り上げれば、国や県、自治体も参加していただけるような学習会ができると思う。(沖)
 - ▶ 防災の話は、河川を通じて流域の問題として展開できると思う。(松沢)
- ・ 三河湾の水産資源で窒素・リンが足りないという問題がある。それを市民科学として話しをするのもよい。(井上)
- ・ 矢作川の栄養循環、物質循環をテーマにして、みんなで考えたら、よい方法が出てくるかと思う。(高橋)
- ・ 第1回・第2回公開講座につながるテーマとして、「農業と環境」など。流域問題として展開できる。(松沢)
- ・ 地域部会で取り組んでいるテーマから選定したテーマで公開講座を開催する。川部会では、生き物の棲める川を一つのテーマとしている。(野田)
 - ▶ 矢作川の栄養循環、土砂問題等は、地域部会が取り組んでいる問題なので、継続的にやっているテーマを議論できる勉強会になると思う。(光岡)
- ・ 農業の人体影響についても話題になった。第二弾という観点で勉強会のテーマにすることはどうか。(光岡)
 - ▶ 流域への展開が難しい。流域圏懇談会のテーマとしては難しいと思う。(沖・松沢)

●次年度に向けた目標・その他

- ・ 農業関係と流域圏懇談会のつながりが薄いと感じる。愛知県の各農協との関係を広げてほしい。(高橋)
 - ▶ 農業関係、工業関係に関係を広げて各部会の活動を進めていくことは、今後の大きな課題と思う。その第一歩として、今回の公開講座は大きな意味があったと思う。(光岡)
- ・ 「いい川・いい川づくりワークショップ」に参加したことにより、新しいつながりができてきている。(近藤)
- ・ 人間環境大学の森林プログラムの一つとして、根羽村での林業体験のプログラムを検討している。外部の人、若い人、興味のある人などに実際に来てもらうプログラムを流域連携イベントとして進めていきたい。(近藤)
- ・ 矢作川流域の木を使った「流域ものさし」の配布や、実際に作ったりするワークショップを企画するとよい。(野田)

今後の予定

■第11回全体会議 日時：令和4年2月21日(月)午後 Web(オンライン)会議

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

令和3年度 矢作川流域圏懇談会

懇談会通信綴り

～公開講座～



発行日：2021年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第1回公開講座を開催しました！

山・川・海を通じた流域の課題として、マイクロプラスチック問題をテーマに、第1回公開講座を実施しました。講座は、豊田市にスタジオ会場を設置し、ZOOMウェビナーによるリモート方式で開催しました。

- ◆ 日時：2021年7月31日 15:00～17:00
- ◆ テーマ：プラスチックが生き物を苦しめている
- ◆ 講師：千葉 賢氏（四日市大学環境情報学部 教授）
- ◆ 参加者：98名（ZOOM参加者77名・会場参加者21名）
- ◆ 参加地域：13都道府県（北海道、山形県、茨城県、山梨県、千葉県、東京都、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、大阪府、兵庫県、福岡県）



◆公開講座の準備と進行

1. 事前打合せとスタジオ会場の設置



公開講座当日12時に、豊田市崇化館交流館にて、講演者・登壇予定者・事務局・事務局補佐が集まり、公開講座のタイムスケジュールや役割分担、ZOOM作動状況等について、最終確認を行いました。最終確認後は、古民家カフェ“kabo.”に移動し、スタジオ会場の設営を行いました。

2. 公開講座の開催



四日市大学環境情報学部教授 千葉氏を講師として迎え、以下の4部構成で公開講座を開催しました。

- 第1部 開会挨拶
市民部会会長の光岡氏より、開会の挨拶と公開講座の趣旨を説明していただきました。
- 第2部 講演
四日市大学教授の千葉氏より、「マイクロプラスチックが生き物を苦しめている」について、以下のテーマで講義していただきました。
【公開講座のテーマ】
海洋プラスチック問題に関するこれまでの経緯、国際的な動きなど
1. マイクロプラスチックとは？
2. マイクロプラスチックの生態系への影響
3. プラスチックごみとマイクロプラスチックによる伊勢湾の汚染
4. 今後の対策 ～ 私たちに出来ることは何か？ ～
- 第3部 ディスカッション
愛知・川の会の近藤氏の司会で、ディスカッションを行いました。ディスカッションには、矢作川流域圏懇談会の青木氏と野田氏、全国川ごみネットワークの金子氏と伊藤氏が登壇し、話題提供を行いました。また、参加者からは、日向氏と佐山氏の2名が登壇者となって話題提供を行いました。
- 第4部 閉会挨拶
豊橋河川事務所より、閉会の挨拶と矢作川流域圏懇談会のこれからの流域連携の方向等について、説明しました。

公開講座の様子は、YouTube で公開しています。【URL】 <https://youtu.be/TQCodHOXJs8>



事前打合せ



スタジオ会場の設置



公開講座の実施

◆ディスカッションでの主な質問と回答 (・質問 ▶回答)

- ・ 徐放性肥料カプセルの流出が多いが、内陸の河川での状況を教えてほしい。(日向)
 - ▶ 三重県の河川では、代掻きの後に徐放性肥料カプセルがたくさん見ついている。その時期が過ぎると全く出ておらず、流出量は時期的に違いがある。(千葉)
- ・ 日向さんは、山梨県内の農協にアンケートを行いたいとのことだが、なにかアドバイスはあるか。(近藤)
 - ▶ 農協でどの肥料を輪旋しているかなど。肥料の一部が徐放性肥料になっている。山梨県全体の水田での使用量がわかってくると、流出量が推定できるようになる。(千葉)
- ・ 帝京科学大学での調査では、川を流下する徐放性肥料のカプセルが引っ掛かってこないとのこと。(日向)
 - ▶ 徐放性肥料のカプセルは水に浮くので、川の表面で採取すれば採れるはず。徐放性肥料のカプセルは5月など限られた時期に出るので、調査時期や、採取ネットを張った期間などが関係しているかと思う。(千葉)
- ・ 農家の方々が徐放性肥料カプセルにより発生する問題を知らないで使っている可能性が高いと思う。農協単位で使うのを止めたという例もあると聞いている。(近藤)
 - ▶ 徐放性肥料は、日本の農業、特に高齢化で人手が不足している農業にとって、非常に重要な肥料になっている。使わないという選択ではなく、使う場合には、意識して、注意して使うという方向にもって行ってほしい。(千葉)
- ・ 海岸でごみを集めたりしているが、海岸に漂着しているプラスチックごみは、海全体からみてどれくらいの割合なのかかわからない。海岸でプラスチックごみを集めたり回収したりする意味はどうか。(青木)
 - ▶ 世界中で出た海洋プラスチックの2/3は海岸に漂着しているという研究がある。伊勢湾では、50%が海岸に漂着する。よって、海岸での清掃活動は意味があると思う。また市民の活動には啓発的な意味合いも大きい。(千葉)
 - ▶ 海岸ではごみが流れ着いてくるところが特定される。ごみが多いところを回収するのは有効で効率が良い。(金子)
 - ▶ 分解して小片化するのが主に海岸であれば、そうなる前に回収しておくことが有効かもしれない。(青木)
 - ▶ それぞれの場所に合った条件で、回収や発生抑制対策を進める考え方で整理するとよいかと思う。(金子)
- ・ 日本はプラスチックごみに関して、危機感がない国、プラスチックが大好きな国と言われている。国の対応も緩いと言われている。マイクロプラスチック問題についても、意識している人はほとんどいないのではないかと思う。(近藤)
 - ▶ 海の場合、きれいな海水浴場で遊ぶことになるので、ごみの多い海岸がイメージされてこなかった。マイクロプラスチックが問題になってからは、報道で取り上げられることが多く、かなり認識されてきている。(金子)
- ・ 先日、豊川の河口でごみ拾いに参加したが、小さなマイクロプラスチックが混じっている。ハマグリのごみを顕微鏡で見ると、ごみの中に細片化されたマイクロプラスチックが入っている。(野田)
- ・ 漂着ごみだけではなく、瀬戸内海で海底ごみの引き上げをやっているというようなこともあり、海底にも溜まっているのではないかと思う。(近藤)
 - ▶ 伊勢湾では詳細な調査は行われていないが、漁業者が底引き網を使うと、かなり上がってくるような状況。(千葉)
- ・ 流域圏懇談会より、「農業系プラスチックの防止のために、一体何をすべきだろうか」という意見が出ている。農業系に対して、私たちは何をすればよいのかについて議論したい。(近藤)
 - ▶ 今年度中に農協へのアンケートを行おうと思っている。農協を含め、農家の方々は、自分たちが使っているものごどんな影響を起しているのかを知らないことが多い。まず、そこから知ってもらわないといけないと思う。(日向)
 - ▶ 消費者の立場から積み上げて、上にあげていくこと。農業系のごみを減らすというのは、川のごみの現状をホームセンターや農協の担当者に伝えていくことが大事と思う。それと、法制度を作ること。法制度ができる時には多くの人の賛同がないとできないので、制度の必要性を理解してくれる人たちが多くならないといけない。(金子)
 - ▶ 東京の荒川河口のごみ拾いをやっている。マイクロプラスチックは、海から戻ってくるのではなく、川ですでにマイクロプラスチックになっているものも多い。(伊藤)
 - ▶ 農家や農協自身が、「安全な農産物を作りたい」というところからいくのがよいかと感じている。(沖)
- ・ 「徐放性肥料の次に気を付けるべきプラスチック製品には何かがあるのか」という質問が来ている。(近藤)
 - ▶ 量的に言えば、硬質プラスチックがある。生活から出たプラスチックが砕けたようなもの。そういうものを流出させないような生活スタイルが大切。不法投棄やポイ捨ては減ってきているが、下げ止まりの状況と思う。(千葉)
- ・ 「石油製品であるプラスチックに代わって、新たな素材の開発は進んでいるのか」という質問が来ている。(近藤)
 - ▶ 海の中で分解するようなプラスチックの開発について、国を挙げて進めているが、良い素材は見つからない。プラスチックにこだわらなければ、紙製品や竹製品とかに置き換える動きも出てきている。(千葉)
- ・ 河川管理者をやってきて、ごみ問題の質が変わってきたと感じている。河川管理者としてのごみ問題は、粗大ごみと美化の問題だったが、水質問題に変わってきたと思う。(近藤)
- ・ 生物の筋肉の中にプラスチックが入ってしまうというメカニズムがよくわからない。(佐山)
 - ▶ 論文の中にも明確には記されていない。筋肉の中から見つかるというメカニズムは調べていかなければいけないと記されている。かなりの数の魚介から見ついているので、普遍的なメカニズムがあるのではと思う。(千葉)
 - ▶ マイクロプラスチックが細胞膜を通過すると、プラスチックそのものが含有している有害な化学物質なども取り込まれてしまうという懸念にもなると思う。(金子)
- ・ 「水辺のごみ見つけ！」という活動を全国川ごみネットワークで実施している。109の水系で「川ごみマップ」が作成されている。(伊藤)
- ・ 現状を知ること。どうすればよいかは次の段階として考えなければならない。私たちは、それぞれの立場で行動していかなければならない。その入り口の話しを本日議論した。(近藤)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：2021年12月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第2回公開講座を開催しました！

山・川・海を通じた流域の共通課題として、ネオニコチノイド系農薬の問題をテーマに、第2回公開講座を実施しました。講座は、三重県四日市市にスタジオ会場を設置し、ZOOM ウェビナーによるリモート方式で開催しました。

- ◆ 日 時：2021年11月27日 15:00～17:00
- ◆ テーマ：アカトンボが危ない！ いま水の中で何が起きているのか？
- ◆ 講 師：苅部治紀氏（神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員）
- ◆ 参加者：87名（ZOOM参加者78名・会場参加者9名）
- ◆ 参加地域：15都府県（山形県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県）



◆公開講座の準備と進行

1. 事前打合せとスタジオ会場の設置

公開講座当日の13時より、講師・司会・ディスカッション登壇者・事務局・事務局補佐が参加し、ZOOMによる事前打ち合わせを行いました。事前打ち合わせでは、通信状態のチェック、タイムスケジュールの確認等を行いました。14時から、スタジオでのPC配置、パブリック会場の設営を行いました。



2. 公開講座の実施

神奈川県立生命の星・地球博物館 苅部治紀氏を講師とし、以下の4部構成で公開講座を実施しました。

- 15:00～15:05 第1部 開会挨拶 光岡金光氏（矢作川流域圏懇談会 市民部会座長）
- 15:05～16:10 第2部 講演 苅部治紀氏（神奈川県立生命の星・地球博物館）

【テーマ】アカトンボが危ない！ いま水の中で何が起きているのか？

【講演内容】

水域における水生昆虫の減少の現状から、その原因の一つとしてネオニコチノイド系農薬をとりあげ、国内の水域におけるネオニコチノイド系農薬の検出状況、検出された要因等について講演しました。そこから考えられる農薬使用の影響や問題点、今後の課題についての考察をまとめました。

- 16:10～16:55 第3部 ディスカッション

ネオニコチノイド系農薬の影響が示唆される生物群の現状、農薬使用の現状、私たちが取り組むべきこと等について、5名の登壇者による話題提供と講師・登壇者によるディスカッション、参加者からの質問への回答を行いました。

【登壇者】

生物関係：清水典之氏（日本トンボ学会）・吉田雅澄氏（日本トンボ学会）・高橋伸夫氏（西三河野鳥の会）
農業・市民生活関係：山本薫久氏（萩野 NPO 結の家）・沖章枝氏（水と緑を守る会・岡崎）

講師：苅部治紀氏（神奈川県立生命の星・地球博物館）

司会進行：松沢孝晋氏（矢作川流域圏懇談会）

- 16:55～17:00 第4部 おわりに

山本薫久氏（矢作川流域圏懇談会 市民部会副座長）に農薬問題等の今後の方向について説明いただいたのち、事務局より、矢作川流域圏懇談会における流域連携の方向等について、説明しました。

公開講座の様子は、YouTube で公開しています。

【URL】 https://youtu.be/mPTiMO_ALVU



事前打合せ



PCの設定



公開講座の実施



◆第3部 ディスカッションでの主な質問と回答 (●質問 ▶回答)

◆ネオニコチノイド系農薬と生態系について

- 最近 20 年で、トンボに限らず昆虫が減ったと感じる。減った原因としては、農薬の他、土地開発の影響が大きいと考えられる。大都市周辺では、水辺環境が明らかに少なくなっている。(清水)
- ここ 30 年ほど、矢作川の上流から下流までヤゴを中心に調査してきた。矢作川上流では、ヤゴはそれなりにいるが、下流に行くと減少する。現在、西尾市や碧南市など矢作川下流では、ヤゴはほとんど採れない。水生昆虫もほとんどいなくなっている。90 年代は矢作川下流にウナギの稚魚がいたが、現在は全くいない。(吉田)
 - ▶ 河川の調査結果では、ほとんどの河川で農薬が検出される。特に、降雨後に高濃度になる。北海道から沖縄まで全国の水域を調査したが、農薬はほぼ全ての水域で検出される。(苅部)
 - ▶ 生態系そのものを破壊する勢いで、河川生物の減少が進んでいると思う。探さないとヤゴが見つからないというのは、昔だったら考えられなかった。全国各地で同じような状況がみられる。さまざまな原因で生物が減っていると思われるが、農薬がそのとどめのように感じている。(苅部)
 - ▶ ネオニコチノイド系の薬剤は、植物の体内に入る。これにより、ミツバチ、チョウなどの訪花性昆虫、それを餌としている鳥など、広範な生物に影響している可能性がある。(苅部)
 - ▶ 問題が、池や水田などのピンポイントから、流域に広がりつつあると感じる。(松沢)
- 小魚を餌にするコアジサシ、干潟の底生生物を餌にするハマシギの数が、1993~1994 年を境に激減している。当時の矢作川河口周辺では、埋立によって環境が変化しているため、農薬が減少の原因かどうかはわからない。(高橋)
 - ▶ ネオニコチノイド系農薬は節足動物全般に効くので、鳥の餌となる多くの生物に影響を与えていると考えられる。それが鳥類の個体数減少の要因になっている可能性がある。減少は、2000 年代に入っても続いている。(苅部)
 - ▶ 生物減少の年代が一致しているのが気になる。宍道湖でニホンウナギやワカサギが激減しているという話もある。我々はこのような現象を知ることから始め、その要因のひとつに農薬があることを考えなければいけない。(松沢)

◆ネオニコチノイド系農薬と農業、市民生活について

- 中山間地の農家の人たちは、カメムシ防除でネオニコチノイド系農薬を撒くのが一般的である。農協が発行している「農事暦」に散布した農薬を記入し、提出する。これを提出しないと、農協は米を引き取ってくれない。カメムシによる斑点米が出ないように農薬を散布する。斑点米が出ると等級が落ちる。しかし斑点米は無害で、味も変わらない。色彩選別機ではじくこともできる。農薬を使わなくても、十分おいしく食べられると思う。(山本)
- 農家の人たちでミツバチを飼う人が増えている。ネオニコチノイド系農薬が昆虫に影響があることを知れば、農薬の使い方も変わってくるのではないかと期待している。(山本)
- 共同防除をしないと約束した米の共同購入の世話係を、30 年近く携わってきた。共同購入開始後しばらくして、カメムシが大発生した。コシヒカリより前に出穂する米を作り、そこにカメムシを集中させることにより防除した。(沖)
- 地域ぐるみの共同購入ということで、米作りの環境も保てるようにしている。今は、減農薬ではなく無農薬米として販売している。「赤とんぼの羽音が聞こえる静かな里で手塩にかけて育まれたお米」として届けている。(沖)

◆Q&A への参加者書き込みへの回答

- 「桶ヶ谷沼のベッコウトンボで新潟県のトキのようなインパクトを、磐田市や茶農家と持てるかどうか。プライドにできる価値を共有したい」
 - ▶ 地域での消費者の運動と農家の取り組みが一体となると、大きなインパクトとなるのではないかと思います。(山本)
 - ▶ 兵庫の「コウノトリ米」とか、豊田市の「赤とんぼ米」等の例がある。(松沢)
 - ▶ 桶ヶ谷沼・鶴ヶ池の周辺には広範囲に茶畑があり、ネオニコチノイド系農薬が検出される。茶畑は農薬を大量に使う。生業に直結することから、地域としての価値観や農薬問題への理解を進めていく必要があると思う。磐田市は「トンボの里」として売り出しているため、行政を含めた中で検討する必要があると思う。(苅部)
 - ▶ 西尾市で茶畑の下手にある池を調べている。90 年代はヤゴがいたが、現在は全くいなくなっている。(吉田)
- 「ネオニコチノイド系農薬は、家庭内の建材やシロアリ駆除などにも使用されていることを忘れてはならない」
 - ▶ 普段使っている薬剤がネオニコチノイド系に変わってきている。これは農家も家庭も同じ。人体被害の研究も進められており、危険性等を認識したうえで使っていく必要があると思う。使用量を少なくする、あるいは使用しない等の日々の生活の中でできることを考えていく必要があると思う。(苅部)
- 「ネオニコチノイド系農薬が、実際、どの程度影響しているのかを確定できるデータが不足していると感じた。具体的な対策を講じるためには、ネオニコチノイドの影響を定量化する必要があると感じるが、どのような研究が必要か」
 - ▶ アカトンボへの影響については定量化の研究が進んでいる。絶滅危惧種への毒性評価試験などは進めていく必要がある。高濃度汚染の検証が進められているので、種の毒性評価は示していく必要がある。実際の被害実態との相関を明らかにしていくのが第一歩になると思う。(苅部)
 - ▶ 最も心配なのが人への影響である。農薬を使用している農家、消費者の側にとっても、虫が死ぬという問題だけではないということが問題解決の中では重要と思う。(苅部)
 - ▶ 農薬の影響は、生態系だけではなく、食の安全を脅かす可能性があることを考えなければならない。これは、我々の世代だけではなく、次の世代にもつながっていく。対策できるところから考えていくことが重要と思う。(松沢)
- 2030 年に向けて全世界的に様々な動きが行われている。化学物質の問題も含め、これらの問題は我々の孫やひ孫世代が幸せに生きられるかの問題。また、今程度の生物が保全されるギリギリの 10 年であると思う。(山本)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



令和3年度 矢作川流域圏懇談会

懇談会通信綴り

～流域連携イベント～

矢作川流域圏懇談会通信

R3 流域連携 vol.1



発行日：令和3年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第13回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップに参加しました！

本ワークショップでは、2日間にわたる地域・世代・立場を越えた出会い・交流をとおして、将来の日本の川や、川と地域の関係のあり方等について、議論を交し合いました。各団体間で課題点や解決案、「いい川」とは何かについて、意見交換を行いました。

矢作川流域圏懇談会は、当日の発表およびグループワークの参加、運営の支援等を行いました。

日程：令和3年10月2日（土）～10月3日（日）

場所：長良川国際会議場

参加人数：5名（事務局を含む）



◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

1. 目的とイベントの内容

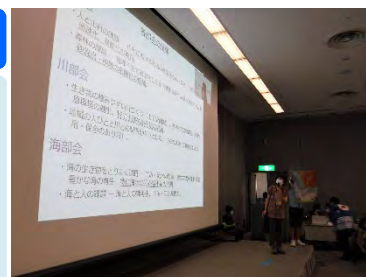


■目的（テーマ、HPより抜粋）

全国各地から“いい川”・“いい川づくり”に向けた発想や視点、関わり、参加や協働のプロセス、“いい川”の回復、実現のために工夫された計画や技術など、意見交換を行い、それぞれの思いや知恵を拾いあげ、これからへ向けて共有することを目的に開催されました。

■主なイベント内容

- ◇全体発表会（会場およびオンラインでの全応募団体の発表会）
- ◇グループワーク（5、6グループに分かれ、全員参加での議論）
- ◇パネルトーク（木曾三川をはじめとする中部の川の豊かさを深堀り） など



全体発表会で、矢作川流域圏懇談会の概要と今後の課題を発表しました

2. 各団体の発表概要（抜粋）



全体発表・グループワークには37団体が参加しました！

■矢作川流域圏懇談会

～矢作川流域圏懇談会 これまでの10年+これからの10年～

矢作川流域圏懇談会の概要説明とこれまでの活動内容、各地域部会の課題や次の10年間の課題などについて、発表しました。

■本別アイヌ協会・十勝川中流部市民協働会議JV

～湿地の維持管理によるアイヌ伝統文化の再生～

湿地の維持管理によるガマの持続的供給やアイヌ民族の文化など、自然や民族との共生について、発表しました。

■ミズベリング岩倉・五条川

～岩倉市 五条川における地域活性化への取り組みについて～

岩倉市民議会のグループワークから発足した「ミズベリング岩倉・五条川」のかわまちづくりに向けた様々に取り組みについて、紹介しました。

■善福寺川を里川にカエル会

～市民力によって都市の川を里川にカエル～

東京都の杉並区を流れる善福寺川を、市民力によって里川に再生する取り組みを発表しました。

■玉ーアクアリウム

～明石川と共に生きる ～神戸市絶滅危惧Bランク・ヒラテテナガエビ～

明石川の環境保全のために、外来種の駆除と在来種や絶滅危惧種の保護をし続けた成果について、情報を発信しました。

■22世紀奈佐の浜プロジェクト

～豊かな海を取り戻すため、100年後の奈佐の浜の漂着ゴミをゼロに！～

3県（愛知県、三重県、岐阜県）の学生が協力して、主な活動とは独立して広報活動などを行っている点や、海ごみの調査や海流から科学的な検証を行っている点等をアピールしました。



グループワークでは、全国の団体とともに議論を交わしました



若い世代に、矢作川流域圏懇談会の概要について説明しました



新型コロナウイルス対策を徹底して開催されました



3. “いい川”・“いい川づくり” ワークショップでの主な意見など

■グループワークでの主な意見（抜粋）

【グループA】～広がり求めて～

◇悩み3か条：①次世代への継承 ②時代で変わる課題 ③連携手法

◇いい川3か条：①「次」の話をする ②若い人の発想を活用する。 ③原体験（ごみひろい、川あそび）

【グループB】～水辺管理と次世代継承の課題～

◇悩み3か条：①ごみ問題 ②高齢化・世代交代 ③地元連携

◇いい川3か条：①水がきれい、魚が多いづくり ②子供が遊び、人が親しめる川づくり
③様々な主体を連携し、“いい川づくり”を進める。

【グループC】～子どもたちに伝えるべきこと～

◇悩み4か条：①ごみが減らない ②活動が広がらない

③オンラインの可能性と限界 ④看板ってホントにいいの？

◇いい川4か条：①関心を持たれている川 ②おいしい・楽しい・儲かる川 ③つながる・かかわる川 ④学べる川

【グループD】～文化・水辺の活用～

◇悩み5か条：①活動を広げたい ②流域で共有する仕組みがいる ③人の輪や専門家の参画

④管理者や他団体との連携 ⑤水辺の構造

◇いい川3か条：①環境学習で誘う、川の安全学習で誘う

②アダプトプログラム、河川協力団体を活用する ③流域で楽しむ

【グループE】～水辺の再生と子どもたち～

◇悩み2か条：①ゴミ ②安全

◇いい川2か条：①子どもが川にいる ②川を良くなるほうに変える

■“いい川”・“いい川づくり” ワークショップのまとめ

か 川のにおいを感じられる2日間

わ 私が、僕が〇〇〇。が大事！～自己決定できる状況を育む～

と 友とのマッチングで全国の学びあい～オンラインの良さを活かそう～

と ともに取り組む、「川びらき」治水に参加しよう！

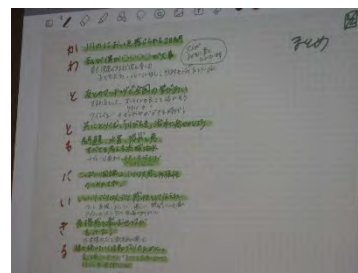
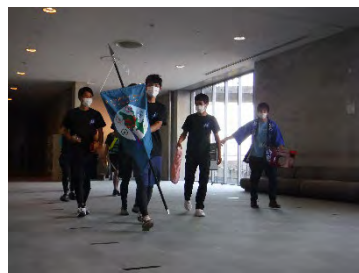
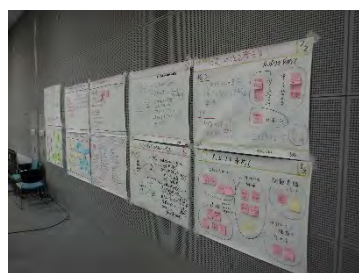
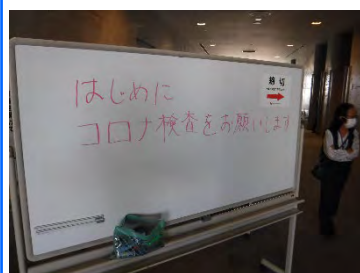
も 問題、水害、リスク（恐れ）と恵、すべてを考える流域治水～流域全体でバランスをとる～

に ニッポン川国論は、小さな共感と多様性の積み重ね

い いい川づくりは人づくり、感性として伝えたい～デザインセンス・文化・市場の掘り起こし～

き 危機感を楽しむセンスが光っていた！～外来種やごみを徹底的に楽しむ～

る 縷々続いていく活動づくりのために。～素（日常）とまつり。信仰・恵・感謝を人につなぐ～



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：令和3年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第8回三河湾大感謝祭に参加しました！

三河湾大感謝祭は、多くの人々に三河湾に関心を持ってもらい、三河湾の環境再生に向けた機運を高めることを目的として、愛知県が主催したイベントです。矢作川流域圏懇談会は、三河湾につながる山の情報を知っていただくために、根羽村森林組合による「動く木のおもちゃの展示ブース」を出展しました。また、矢作川の情報発信を目的としたクイズの出題と、魚のペーパークラフトを参加者に配布しました。

日程：令和3年10月24日（日） 10：00～16：00

場所：豊田自動織機海陽ヨットハーバー

参加人数：12名（事務局を含む）



三河湾の環境再生、SDGSの達成に向けたセレモニー「ガンパローコール」の様子

◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

1. 目的とイベントの内容



■目的（チラシ、HPより抜粋）

三河湾環境再生プロジェクトの一環として、「知ろう！守ろう！命が生まれ、命が育つ きれいな海“三河湾”」をテーマに第8回三河湾大感謝祭が開催されました。

■主なイベント内容

- ◇三河湾環境トークショー（ゲスト：竹島水族館 小林館長&瀧川鯉斗師匠）
- ◇名古屋CLEAR'S（アイドル）ミニライブ
- ◇クイズラリー（豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会提供）
- ◇セーリングワールドカップレガシーイベント（同時開催）



矢作川流域圏懇談会のブースを愛知県知事に紹介しました

2. 矢作川流域圏懇談会・関係団体等 出展状況



■矢作川流域圏懇談会

～活動紹介と矢作川に関するクイズの出題～

根羽村森林組合による木製の弓矢のおもちゃを出展し、矢作川に関するクイズを出題しました。約60名のクイズ参加者には「魚のペーパークラフト」をプレゼントしました。

イベントには19団体（国土交通省、愛知県等含む）が参加しました

■環境ボランティアサークル亀の子隊

～海ごみゼロの活動と流木ペン立て作り～

渥美半島にある西の浜海岸の現状を伝えるパネルの展示を行いました。また、流木を利用したペン立て作り体験を実施しました。

■愛知県水産試験場

～海の生きものの展示～

水槽に海の生きものを展示するとともに、パネルを用いた海の情報発信を行いました。

■愛知教育大学学生団体（SAGA）

～小・中学生へのSDGs教材の展示～

子どもたちにSDGs（持続可能な開発目標）を広めるための教材を展示しました。

■桜丘高等学校生物部

～朝倉川の生き物紹介とミナミヌマエビすくい～

豊川水系の朝倉川に生息する生き物の紹介と、ミナミヌマエビすくい体験を行いました。

■国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所

～三河湾とシーブルー事業の紹介～

他の湾に比べて汚れやすい形状にあるといわれる三河湾の特徴を紹介し、きれいな水質を目指すシーブルー計画の発信を行いました。

■愛知県資源循環推進課

～あいちの海とごみの関係～

パネル展示やカードゲームをとおして、海ごみの問題について紹介しました。



木のおもちゃ（弓矢）を楽しむ名古屋 CLEAR'S（上段）と子どもたち（下段）



東幡豆漁協石川組合長による講演



■三河湾大感謝祭を通じて感じた事

【会場の雰囲気】

- ・本会場は、家族連れが多かった。
- ・ものを加工し、持ち帰ることができるブースが多かった（およそ8～9割程度）。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底していた。
- ・展示ブースだけでなく、星越海岸での生き物観察会や、スナメリ号のクルージングなども開催していた。

【よかったと思うこと】

- ・動く木のおもちゃ（弓矢）の展示は、参加ブースの中では特に目立った。同様の企画はほかになく、子供が遊びに熱中するため、家族づれに好評だった。
- ・矢作川流域圏懇談会ブースは、最も端の場所で、ブース以外の空間場所も使用でき、最高の配置であった。
- ・魚、貝等の生き物展示は3ブース程度あった。多くの家族連れを集客していた。
- ・流域圏クイズはまず回答を記入いただき、その後解答のチェックと補足説明を行った。これにより、流域圏について理解・興味をもっていただけた。
- ・流域圏クイズの参加者には、矢作川流域圏懇談会風呂敷、魚のペーパークラフトを景品とした。景品は客寄せに必要なものだと考えられる。
- ・矢作川流域圏懇談会の活動に興味を持っていただいた方が数名おり、10年誌をお見せしたところ好評だった。

【注意すべきこと・今後に向けた提案】

- ・流域圏クイズのレベルが高かった。
- ・ブースの大きさは、流域圏クイズ、パネル展示、木のおもちゃを展示するには、少し狭かった。
- ・今年は海風が強かった。風が強いことを想定して展示するもの、展示の仕方を変える必要がある。
- ・出店規模に応じて木のおもちゃ、流域圏クイズ、パネルの展示などの内容を絞り込むほうが良い。
- ・赤色立体地図パネルに情報を盛り込んだり、指さして話せたりすると、人が集まるし、防災情報等も説明しやすい。
- ・一昨年度の蒲郡でのイベントと比べ、飲食ブースがなかった。
- ・クイズの内容については、各部会であらかじめ話し合っておく必要がある。

～三河湾環境再生パートナーシップ・クラブとは？～

県民、NPO、企業、関係団体、教育機関、行政等が連携・協働して、多くの人々に三河湾に関心を持ってもらい、県民の里海である三河湾を再生し、次の世代に贈ることを目的としたクラブです。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



令和3年度 矢作川流域圏懇談会

懇談会通信綴り

～山部会～

矢作川流域圏懇談会通信

R3 山部会編 vol.1



発行日：令和3年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第59回山部会WGを開催しました！

6月25日(金)、第59回山部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で根羽村にて開催しました。今回のWGは、活動の進捗報告と今年度の活動目標、バスツアーの内容、公開講座について話し合いました。また、矢作川水系流域治水プロジェクトについて報告と協議を行いました。

日時：令和3年6月25日(金) 13:30~17:05

場所：根羽村老人福祉センター しゃくなげ

参加者：20名(内オンライン参加8名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 令和3年度の矢作川流域圏懇談会の開催方針・矢作川流域圏懇談会について(設立要旨・規約)



- ・緊急事態宣言発出期間(まん延防止等重点措置発出期間を含む)中の開催方針、平常時の開催方針について事務局より説明がありました。今回のWGは、対面形式の人数を最小限とし、オンライン会議に重点を置いた方式で実施しました。
- ・今年度最初のWGであることから、矢作川流域圏懇談会の設立要旨・規約等について確認を行いました。

2. 令和2年度までの活動進捗報告・今年度の山部会の活動目標



令和2年度の活動進捗、令和3年度の活動目標について、4つのテーマごとに以下の報告がありました。

■流域圏担い手づくり事例集

- ・令和元年~2年度は、事例集に関する作業を休止し、流域圏懇談会10年誌としてこれまでの活動の整理を行った。
- ・令和3年度は、流域圏担い手づくり事例集の作成を再開する。作成に当たっては、①都市住民を巻き込んだ先進的な活動への取材、②新しい取材候補団体などへの取材など、取材方法を工夫しながら事例集作成を進めていく。

■森づくりガイドライン

- ・令和2年度は、国や市町村の森づくりについて情報交換しながら、ガイドライン作成を進めた。
- ・令和3年度は、流域市町村の森林に関するデータや計画について情報収集し、WGにおいて協議する。森林が、洪水や水資源にとってどのような役割を果たしているかについて、矢作川水系流域治水プロジェクトの動向とともに協議する。

■山村ミーティング

- ・令和2年度は、「流域の森づくりガイドライン」を策定することを目標に、林業技術者の意見収集、地球環境基金の助成金への応募、矢作川感謝祭への参加などを行った。
- ・令和3年度は、「矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議」と連携しながら、林業技術者が科学的に信用でき、科学的データを踏まえた山仕事を習い、実践していくことを目指す。
- ・9/5に予定されている矢作川大感謝祭に参加する。

■木づかいガイドライン

- ・令和2年度は、「木づかいガイドライン」を作成することを目標に、地域住民や子どもたちへの木づかいの場の提供を行った。「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くのイベントが中止となったが、岐阜女子大学、愛知教育大学などの木育関係での取り組みを行った。
- ・令和3年度は、市民を対象とした木づかいに焦点を当て、身近な生活空間の中に木のアイテムが入っていく活動を進めていく。また、コウヨウザンの試験植栽、末木枝条のチップ化や木質燃料としての活用、技能職員がリードする森林空間利用など、「かっこよく、クリエイティブで、希望をもって輝いている」ことを目指した活動を推進する。

3. バスツアーの内容について



11月25・26日に実施予定のバスツアーの内容、工程について確認と協議を行いました。山部会では、つくラッセルの現地視察の追加などについて今後のWGで再検討していきます。

4. マイクロプラスチック公開講座について



7月31日開催予定のマイクロプラスチック公開講座の内容について事務局から説明がありました。流域圏懇談会を外に発信していくため、広報の方法、外部団体との連携などについて話し合いました。

5. 矢作川水系流域治水プロジェクトについて



国土交通省が推進している「矢作川水系流域治水プロジェクト」について、事務局より説明がありました。本プロジェクトでは、事業を「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」「被害対象を減少させるための対策」「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」の3つのカテゴリーに分け、国・県・市町が一体となって流域治水を推進していきます。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集

- ・「名古屋市長者町を中心とした木質化プロジェクト」について教えてほしい。(今村)
 - ▶ 旭木の駅プロジェクトで出てきた木材の一部を使って、まちづくり、中心市街地の活性化の一環としての木材の活用を行っている。ウッドデッキや内装材など、長者町のまちづくりで旭の木材を活用している。(洲崎)
- ・「森と子ども未来会議」はどのような活動なのか。(今村)
 - ▶ 学童保育と連携し、流域の木材を使って、学童保育の学び舎を作る活動。学童の学び舎を作ると、「木材の出た山に行こうよ」という話しになり、木育や森林学習にもつながっていく。(丹羽)
- ・都市との関係は重要と思う。山の恵みを活かすということで都市の役割を考えていく。(近藤)
- ・取材数を絞り、コロナ禍でもがんばっている人を励ますという意味合いも含め取材を継続していきたい。(洲崎)

●森づくりガイドライン・山村ミーティング

- ・岡崎市の水源条例の動きはどうか。(今村)
 - ▶ 水環境基本計画が新しくなった。水循環計画に基づいて森林を整備していく内容も記されている。(蔵治)
- ・現場の林業技術者の意見はけっこうある。矢作川流域山づくりWSには、多くの組合員を参加させたい。(今村)
 - ▶ 1年目は各組合2名と参加人数を絞っていくが、2年目からは人数を広げる方向で検討したい。(蔵治)

●木づかいガイドライン

- ・ウッドショックで木材価格が高騰していることは、ある意味チャンスかと思う。(今村)
- ・広葉樹を活かしたカトラリー製作の講座をやっているが、非常に人気がある。ウッドデッキやマウンテンバイクコースなどとセットにした森林空間づくりに取り組みたい。(今村)
- ・組手什などで林業に関心を持つ人が増えてきていると思う。林業に目が向いている時なので、この機会を逃さないようにしたい。(高橋)

●矢作川水系流域治水プロジェクトについて

- ・流域治水で何が変わるのかが見えない。また、法的に何が進むのかが見えない。(近藤)
- ・流域全体からやるべきことを明示するとよい。流域全体をみてはじめてわかることもある。(洲崎)
- ・矢作川流域圏懇談会は山・川・海の部会があり、流域治水という視点での存在意義は大きいと思う。(近藤)
 - ▶ これは治水に焦点を当てた整理だが、河川整備の目的には利水や環境などもある。森林には多目的・多面的な機能があり、そのひとつが治水。そういう議論をやれるのが流域圏懇談会であり、役割・意義と考える。(蔵治)

●バスツアーの内容について

- ・つくラッセルは現場で説明が聞けるとよい。奥矢作レクリエーションセンターからつくラッセルに移動するのは時間的に可能かどうかという点は要検討。(洲崎)
 - ▶ バスツアーの最終決定は9月を予定している。その前までに可能かどうか検討する。(事務局)
 - ▶ バスツアーにつくラッセルの現場を盛り込むのが難しい場合は、合同勉強会など別の機会に計画してもよい。(洲崎)

●マイクロプラスチック公開講座について

- ・山部会で言われていた「もっと外に」という流れを受けて公開講座を実施する。もっと多くの人に加わってもらうということで、流域内の大学、学生にも関わってもらうことを計画している。(近藤)



今後のスケジュール (予定)

次回の山部会ワーキング・フィールドワークは、8月27日(金)・28日(土)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R3 フィールドワーク vol.1



発行日：令和3年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆根羽村の木づかい現場を訪れ、その活用等について学びました！

根羽村森林組合が取り組んでいる木づかい活動の現場を訪れ、森林の保全や育成、森林資源の活用等について学習しました。

日時：令和3年6月26日（土）

場所：①コウヨウザン植栽箇所 ②村有林皆伐地 ③根羽村森の交流館 ④ネバーランドフォレストガーデン

参加者：12名(事務局を含む)



◆フィールドワークの記録

① コウヨウザン植栽箇所

スギやヒノキに比べて成長量が大きな樹種（コウヨウザン）の植栽試験地を見学しました。コウヨウザンが活用できれば、伐期の短縮（50年→30年）となり、育林コストの削減や林齢の平準化などの効果が期待されます。植栽したコウヨウザンは、シカによる食害を防止するため、ハイトシェルターが導入されています。



コウヨウザンの試験植栽地。皆伐したところに2250本（1500本/ha）を植栽。



シカによる食害を防止するハイトシェルター

② 村有林皆伐地

1.27ha ヒノキ林の皆伐地。植栽する樹木については、成長が早いスギを植栽するか、コウヨウザンを植栽するかなど検討中です。



③ 根羽村「森の交流館」

森の生活や森林体験の場、交流の場として開館した「森の交流館」を見学しました。



④ 山地酪農実験地：ネバーランド フォレストガーデン

ネバーランド近くの山地酪農実験地のフォレストガーデンを見学しました。ネバーランドからのアプローチとして木製歩道が設置され、新しいウッドデッキも設置されました。牧場では放牧されている牛を見ることができました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@milit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R3 山部会編 vol. 2



発行日：令和3年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第60回山部会WGを開催しました！

10月1日(金)、第60回山部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で恵那市にて開催しました。今回のWGは、4つのテーマの活動進捗報告、名古屋大学の高野教授による「森林を破壊して進行する太陽光発電の現状」の話題提供等について話し合いました。

日時：令和3年10月1日(金) 13:30~17:00

場所：恵那市消防防災センター 3階研修室

参加者：32名(内オンライン参加10名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 山部部会の活動・出発点の共有



座長・事務局より、矢作川流域圏懇談会が設立された背景や経緯、山・川・海の3部会の役割と流域の視点、山部会のテーマが決まった経緯、4つの地域(根羽・恵那・豊田・岡崎)を回るWGの主旨等について説明がありました。

2. 4つのテーマの活動進捗等の報告



(1) 流域圏担い手づくり事例集

- ・今年度から事例集作成を再開させる。10年誌作成の過程で、流域の課題を解決するためには、都市住民を巻き込むことが必要であることがわかった。その先進事例的なプロジェクトを対象として取材を行い、レポートを作成していく。取材対象は、森と子どもミライ会議、都市の木質化プロジェクト、旭木の駅プロジェクトとする。
- ・10年誌の編集委員が中心となって、「流域圏懇談会 次の10年ミライ会議」を8月に発足した。流域圏懇談会の今後の活動について、次世代へつないでいくことを勘案しながら、さまざまな提案を行っていきたい。

(2) 山村ミーティング

- ・7月26日に矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議を岡崎森林組合で行った。山仕事で感じる疑問や不条理について、課題解決のために必要な技術や知見、制度をガイドブックにまとめていく。
- ・次回会議は豊田で行う。豊田森林組合と協議し、現場で何を解決していけばよいのかを明確にしていきたい。

(3) 森づくりガイドライン

- ・矢作川流域の市と村の間伐面積の実績データを整理し、経年をグラフで示した。豊田市と根羽村では皆伐が増えていくことから、今後は、この統計に加えて皆伐面積のデータも整理していくことを検討したい。

(4) 木づかいガイドライン

- ・子どもたちに根羽の林業を伝えるための資料として「森の民のこどもたち」(NPO法人 矢作川源流の森ねば)を作成した。「木を育てる」「木で作る」「木とくらす」「木と共に生きる」の категорияで、森の育成から木材の生産、暮らしの中での木の活用などを解説した。
- ・「森のようちえん」という活動が世界で広がっており、日本でも各地で取組が進められている。森のようちえん的な活動により、移住者が増え、定住促進につながっているところもある。矢作川流域独自の森のようちえんの構想を推進することにより、将来、森を守る担い手づくりに結び付く可能性もある。
- ・森林環境譲与税の用途について、国の政策視点でも、環境教育や木育などの原体験を与えていくことの重要性が認められている。

3. 話題提供 森林を破壊して進行する太陽光発電



名古屋大学大学院環境学研究科教授 高野雅夫氏により、「森林を破壊して進行する太陽光発電 恵那市飯地町の現場からの報告」をテーマに話題提供いただきました。主な内容を以下に記します。

- ・太陽光発電が全国で森林を破壊して造られている。豊田市でも70haの太陽光発電所が森林を伐採して建設された。2012年にFITが施行され、爆発的に太陽光発電が普及した。
- ・FITはドイツの制度を輸入したものだ。ドイツでは森林に設置される太陽光発電はないが、日本の法律は売電のところを制度化したもので、設置に関する規制は森林法や農地法など個別法しかない。
- ・太陽光発電による森林伐採は、景観や生物多様性への影響、土砂災害や濁水の発生など様々な問題が発生している。
- ・恵那市飯地町に建設された太陽光発電では、集水域をすべてパネルで覆っているため、下流域の濁水被害、豪雨時の出水被害が発生しており、大きな問題となっている。飯地町では、他に10箇所の太陽光発電が計画されており、環境への影響、災害発生が危惧される。
- ・太陽光発電による森林破壊を防ぐため、①森林での開発を規制できないか ②土砂災害警戒区域の上流での開発が規制できないか ③地元住民や隣接地住民の同意が必須とできないか などの課題があげられる。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集

- ・ ミライ会議のテーマや落としどころなどはいかがですか？(今村)
 - ▶ これから検討していく。話題に取り上げたいことなどあれば提案してほしい。(洲崎)
- ・ 矢作川流域圏懇談会を通じて、上流域の木が下流域で広がっていく展開を考えている。(今村)
 - ▶ 今回紹介しているのは、豊田と名古屋、岡崎と名古屋の交流。いろんな形でコラボできればと思う。(洲崎)
 - ▶ 木を使うだけでなく、人と人との交流ができることが重要と思う。(蔵治)
- ・ どういう形で進めていくかはミライ会議などで協議していく。取材者募集もやっているので協力をお願いする。(洲崎)

●山村ミーティング

- ・ いろんな森林組合の方と現場で話しができるのはよいと思う。会議室に入るとあまり意見が出ないので、現地で話すほうがよいと感じた。テーマを検討し、テーマを出すようにしていければよいと思う。(今村)

●森づくりガイドライン

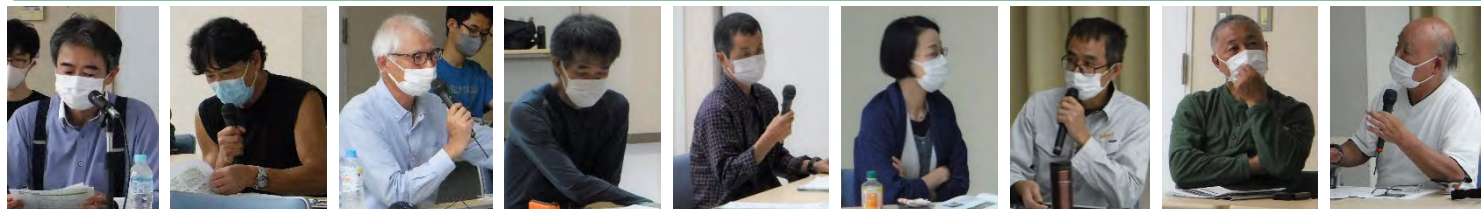
- ・ 製材品については受注が多くなっている。外材が入ってこなくなっており、素材市場でも買えなくなっている。今まで3~4haの皆伐だったが、来年あたりから10haくらいの皆伐を予定している。(今村)
- ・ それぞれの市村での間伐必要見込みのような数値をグラフに入れるとわかりやすい。(野田・浅田)
 - ▶ 豊田市と岡崎市は間伐計画の数値がある。恵那市・平谷村・根羽村についてはわからない。(蔵治)
 - ▶ 根羽村では、市町村森林整備計画と経営計画の数値がある。また、要間伐林分を森林簿で管理している。(今村)
- ・ 幸田町には森林組合がないので、どこまで切ればよいのかなど見当がつかない。(清水)
 - ▶ 森林組合のない市町村は日本にはたくさんあり、愛知県であると、尾張地方の市町村には森林組合がない。幸田町の森林の権限は幸田町役場にある。あるいは、愛知県西三河事務所に相談窓口があると思う。(蔵治)

●木づかいガイドライン

- ・ 時代の流れとして、田舎の価値が上がってきている。田舎暮らしの主流化。矢作川の森や山には恵みの価値がある。セカンドハウスを持ったり、森のようちえんで子供を体験させるという機会は増えてきていると思う。(浅田)
- ・ 森林環境教育、森のようちえんなど木育活動に恵那市も今年度から取り組み始めた。(佐藤)
- ・ ドイツでは、森林教育センターや裸足公園など子供が学ぶ場が多く設定されている。森林教育センターでは、子供だけでなく、母親にも知ってもらうということにも力を入れている。(城田)

●話題提供：森林を破壊して進行する太陽光発電

- ・ 出水については明らかに想定できると思うが、計画段階でのチェックはなかったのか？(今村)
 - ▶ 開発許可が出された時点で調整池が計画されていたが、それを全部なくしてしまっている。造るまでの説明会は何度もあったが、工事が始まってしまうと住民への説明はなく、全く違ったものができてしまった。(瀬藤)
- ・ 疑問なのは、完成した時に、竣工検査とかの形で行政が技術基準に適合しているかを確認するはずだが。(浅田)
 - ▶ 経済産業省は、売電する権利を認めるだけであって、FITとは関係のないところは検査しないとのこと。(高野)
 - ▶ 県が開発許可を出したのなら、許可したものについて検査を行い、もし違っていたら指導をするはず。(小島)
 - ▶ 県が許可を出しているのに、たぶん途中で設計変更があったのかと思う。(高野)
- ・ これまでの林地開発の体験から言うと、良心的でない業者は開発の隙間を突いてくることもある。(沖)
- ・ 熱海の土石流災害から、指導という行政処分には実効性がないということかもしれない。(蔵治)
- ・ 森林は二酸化炭素を吸収するということだが、太陽光発電は、今後どこに造るのが適切か。(清水)
 - ▶ 日本の急峻な地形の中では、国内に適地はあまりないと思う。太陽光発電は、もうこれ以上やらないというのが正解ではないかと思う。やるのであれば、高速道路に並べるとか、ビルの屋根に付けるなど。(高野)
- ・ これは流域の問題にしないと進まないと思う。マスコミに訴える、流域の人たちに知ってもらうなど。(野田)
- ・ 監視体制を作れるとよいかと思う。ネットワークを作り、常に監視できる体制など。(洲崎)
- ・ 国内では皆伐がものすごい勢いで進んでいる地域があり、土砂災害警戒区域の直上流での皆伐のケースもある。(蔵治)
 - ▶ 「皆伐ガイドライン」のようなものを考えていかなければいけないかも。(丹羽)



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会ワーキング・フィールドワークは、11月5日(金)・6日(土)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R3 フィールドワーク vol.2



発行日：令和3年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆恵那市内の太陽光発電施設の現状を学びました！

日時：令和3年10月2日（土）

場所：恵那市内

参加者：15名(事務局を含む)

◆フィールドワークの記録

公開できない情報が含まれているため、
本懇談会通信は非公開とさせていただきます。
ご了承ください

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：令和3年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第61回山部会WGを開催しました！

11月5日（金）に第61回山部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で豊田市にて開催しました。今回のWGは、4つのテーマの活動進捗、「豊田市の森づくりの成果と課題」に関する話題について話し合いました。その他、流域連携イベントの実施状況について報告がありました。

日時：令和3年11月5日（金） 13:30~17:05

場所：豊田森林組合庁舎 第2・3会議室

参加者：23名（内オンライン参加5名） ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 4つのテーマの活動進捗等の報告



(1) 流域圏担い手づくり事例集

- ・ 2013年度から作成していた事例集は、10年誌作成で2年間休止していたが、今年度から作成を再開する。
- ・ 山間部と都市をつなぐ先進事例として「森と子ども未来会議」の取材を行い、レポートを作成する。プロジェクトに関わる複数の人に取材し、プロジェクト全体を立体的に浮かび上がらせるようなアプローチを進めていく。

(2) 山村ミーティング

<串原森の健康診断>

- ・ コロナの影響で2年間中断していた森の健康診断の再開について会議を行い、2022年6月4日に15チーム30地点で、2023年は25地点で実施することを決めた。
- ・ 今までの森の健康診断は山の所有者一人一人の理解を得ずに実施していたが、次回からは、調査地点の所有者確認と同意取り付け、診断結果の還元を実施していく。

<ガイドブック作り>

- ・ 7月26日に矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議を岡崎森林組合で行った。第2回会議は、各組合の「人材育成の自慢と葛藤ミーティング」と称して、豊田森林組合で実施する予定である。テーマは「理念と誇りをもって安全に森林整備できるカッコイイ森林技能者育成」とした。

(3) 森づくりガイドライン

- ・ 人工林の皆伐について、これまで矢作川流域圏懇談会で議論したことはなかった。しかし、根羽村森林組合や豊田森林組合では皆伐が増加していることから、皆伐を一つのテーマとして取り上げなければいけない。
- ・ 皆伐に伴う土砂崩れ、保水力の低下、放置人工林による流木災害が発生している。豊田市では、災害を防止するため、人工林の間伐を進めている。皆伐の問題を流域全体で共有していきたい。

(4) 木づかいガイドライン

<改正公共建築物等木材利用促進法について>

- ・ 木材利用促進の対象を公共建築物から、民間建築物を含めた建築物一般に拡大するための法律改正が行われた。
- ・ 年齢別面積から若い森林を増やすことの必要性が記されているが、これは皆伐を進めることを意味している。
- ・ 木材利用の意義では、施設や店舗での木造や木質化の採用を推奨している。学童保育等の木質化にもつながる。
- ・ 建築物木材利用促進協定が制度化された。参考例で「地域材を積極的に活用することにより山村の活性化に貢献していく」ことが明記されており、矢作川流域での活用が期待できる。

2. 話題提供 豊田の森づくりの成果と課題について



豊田市森林課 小山剛氏により、「豊田市の森づくりの成果と課題について」をテーマに話題提供していただきました。主な内容を以下に記します。

- ・ 豊田市では、「新・100年の森づくり構想」に従い、「第3次森づくり基本計画」を策定した。本計画では4つの重点プロジェクトがあり、メインは過密人工林を解消するための間伐推進である。
- ・ 市と豊田森林組合が連携し、地域森づくり会議 団地化推進プロジェクトによる間伐を推進している。
- ・ 森づくり団地方式の課題は、①人工林整備の持続 ②森林所有者の森林離れ ③森づくり構想と団地計画の乖離 である。そのため、地域づくりに寄与する持続可能な森づくりについて話し合う機会を設け、地元主導を進めていく。
- ・ その他、森づくり会議・団地化が困難な地区への対応、団地化が完了した森づくり会議への対応、施策と一致させた補助体制の確立を検討していく。
- ・ 豊田市は全国に先駆けて森林整備を実施している。森林環境譲与税は、森林整備の安定化、持続可能な森林整備に向けての投資などに使っていく。そのため、人材育成や普及啓発、木材利用を進めていく。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集

- ・取材では、どの点に注目していくのか？(浅田)
- ▶ 額田の木材が、名古屋の子ども達のために活用されたこと。流域山間部の木材活用の成功事例だと思う。(洲崎)
- ・都市部でプレハブの建物は迷惑施設。木造の建物は受け入れられる。土地提供者としても出しやすいと思う。(近藤)
- ・都市から農山村への流れが作れたら、双方向のつながりができる。双方向性という点で、話は進みそうか？(蔵治)
- ▶ 旭木の駅プロジェクトと名古屋市長者町の例など、双方向のつながりはできてきていると思う。(洲崎)
- ▶ この取り組みでは、子ども達自身が木の材料のある山を見に行くということで、つながりができていると思う。(近藤)
- ・学童保育が稼働し始めた後も、とぎれなく継続するとよい。建物の由来などを語り継いでいくなど。(蔵治)
- ・地域の木にこだわっているのが「森と子ども未来会議」の活動のすごいところだ。(丹羽)

●山村ミーティング

- ・会議のメンバーについて。1 順目は当事者に絞って話しを詰めていきたい。(丹羽)
- ・来年6月、これまで延期していた森の健康診断を実施することになるので、参加をお願いする。(蔵治)

●森づくりガイドライン

- ・木材生産と防災の両立はどのようにとらえればよいか？(清水)
- ▶ 木材生産の経済合理性だけを追求する方式は、防災上の機能を100%発揮できるということにはならない。最近、長伐期・多間伐という方式が、地域の長期の持続性ではふさわしい方法という意見が出てきている。(蔵治)
- ▶ 災害については、最近大雨が増えている傾向があり、気候変動のせいとも言われている。そうすると、リスクも高くなり、経済的にも未来が見通せないという問題がある。(蔵治)
- ・皆伐だけではなく、いろんなことを組み合わせた小規模林業はどうか？(浅田)
- ▶ 小規模・大規模という問題だけではないと思う。規模で優劣をつけるのは、今の段階では難しい。(蔵治)

●木づかいガイドライン

- ・建築物木材利用促進協定の形態に山の所有者が入っていないのに違和感がある。(浅田)
- ▶ 林業・木材産業事業者は森林組合に入っている。森林組合は森林所有者の組合なので、組合があれば、組合を通じて森林所有者も入っていることになる。(蔵治)

●話題提供：豊田市の森づくりの成果と課題について

- ・針広混交林を目指すとするが、40%間伐の正しさも含め、どういうふうに捉えているか？(清水)
- ▶ 40%間伐では針広混交林には向かわない。今後は、機能が発揮される基準を見つけていく実験を行っていく。(小山)
- ▶ 皆伐した時は非常に危険だが、皆伐すればその時点で天然林に向かう。それを助けてやる方法もあると思う。(清水)
- ▶ 帯状に皆伐して再造林したところもある。帯状とは5列くらい。残念ながら、高木は生えてこなかった(小山)
- ▶ 皆伐だったら楽にできるところを、間伐は相当な技術が必要で、危険も伴う。(清水)
- ・課題は、山主の山離れ。森づくり会議とかで次世代にバトンタッチしていくような仕組みがあればと思う。(丹羽)
- ・森づくり会議では、市役所と森林組合でやりすぎてしまい、森づくりは進んだが、地域自治は進まなかった。(小山)
- ▶ 山主に山に来てもらう、山に連れ出す仕掛けも必要。新しい仕組みや制度を作らなければいけないと思う。(杉本)
- ▶ 木の駅 全国サミットでは、10~20の木の駅をやっている人が集まる。集まれる場が作れたらよいと思う。(丹羽)
- ・幸田町は森林組合がないが、西三河事務所として幸田町はどのように進めていけばよいと考えているか。(蔵治)
- ▶ 森と緑づくり事業で間伐を進めている。また、地域でなんとかしようとして動き始めている地域が出てきている。(生田)
- ・豊田市の山は、何か新しい利用価値、付加価値があると思う。それが計画に入っているかどうか。(浅田)
- ▶ 豊田市の山は、①木材生産林 ②木材生産せず本数管理する人工林 ③活用天然林 ④保全天然林 の4つに分けている。これでゾーニングしていく。説明できるプランを出していきたい。(小山)



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会まとめの会は、1月21日(金)・22日(土)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所(cbr-toyo-chousa@mlit.go.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R3 フィールドワーク vol.3



発行日：令和3年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆豊田市御内町のゴンゾレトレイルを視察しました！

豊田市御内町において、「山林で遊び場をつくろう」をコンセプトに、山林を整備し、各種イベントを開催している「ゴンゾレトレイル」を視察しました。

日時：令和3年11月6日（土） 9:30～12:00

場所：豊田市御内町 ①御内集会場 鼎館 ②ゴンゾレトレイル

案内：藤澤祐作氏・藤澤あや氏

参加者：14名（事務局を含む）



◆フィールドワークの記録

① 御内集会場 鼎館での話し合い

鼎館にて、御内町の歴史、ゴンゾレトレイルの目的や活動内容について、藤澤祐作氏・藤澤あや氏より説明を受け、参加者とディスカッションを行いました。

【ゴンゾレトレイルについて】

- ・ゴンゾレトレイルを始めたのは昨年1月からで約2年となる。
- ・ここの土地の空気感を楽しみ、共有できる場所をつくろうということでスタートした。
- ・「森の座禅会」など各種イベントを行っている。実際に来ていただき、一緒に山の中で過ごして体感する機会を作っていきたい。



② ゴンゾレトレイルの視察



木道を渡って林内へ



針葉樹と広葉樹の森



開けた林床の空間



溪流の空間



森の中の発見



森の中でディスカッション

◆ゴンゾレトレイルへの提案

- ・鳥の巣箱を設置すると、鳥の種類・数が増える。ムササビも繁殖できる。
- ・広葉樹があるのがいい。針広混交林になり、貴重な空間になる。
- ・水生昆虫が多い。樹林の昆虫も多いと思う。楽しい観察会ができそう。

◆これからのゴンゾレトレイル

- ・自然を利用した観察会、地域との交流に関わる企画を進めていく。
- ・ここでの過ごし方、いろんなことができるというのを発信していく。
- ・地域を感じ、地域と触れ合える場所にしていきたい。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：令和4年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第13回山部会まとめの会を開催しました！

1月21日(金)に第13回山部会まとめの会が新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で岡崎市にて開催されました。今回のまとめの会は、岡崎市と岡崎森林組合より森林施策、森林事業に関する話題提供、4つのテーマに関する活動の進捗と次年度の目標について話し合いました。

日時：令和4年1月21日(金) 13:30~17:10
場所：岡崎市額田センター こもれびかん 集合室A・B
参加者：25名(内オンライン参加6名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 話題提供

岡崎市森林課、岡崎森林組合より話題提供していただきました。主な内容を以下に記します。

■岡崎市の森林環境譲与税を使った森林施策について(岡崎市森林課)

- 岡崎市では、令和2年度の森林環境譲与税を活用し、森林の整備に関する施策と森林の整備の促進に関する施策に取り組んだ。
- 森林整備に関する施策として、森林管理権集積計画を37.64ha策定し、市が所有者から委託された森林を管理し、うち、林業として採算が合う22.57haにおいて経営管理実施権配分計画を策定し、森林の経営管理を民間事業体に再委託し、残りを市が整備を行う。
- 森林の整備の促進に関する施策では、森林の整備を担うべき人材の育成および確保のため、市主催事業として人工林間伐養成講座(基礎編・実践編)、森の女子会および人工林間伐フォローアップ講座の4講座を開催した。

■岡崎森林組合の補助金(農林中金)を使った森林事業の報告(岡崎森林組合)

- 施策が困難であると放置していた森林に対して、ICT技術を導入して森林情報および地形情報を取得し、森林管理を行うと共に、急傾斜地での危険性を考慮した作業道の開設と森林整備の遅れている地域の施策に取り組んでいる。
- 木望(きぼう)の森整備事業では、学識経験者、県・市の林政担当者、県内の林業関係者による整備検討委員会を設置し、事業実施に伴う問題点、技術的内容等について検討している。
- 木望の森整備事業では、ICTによる森林調査に基づく作業道開設に併せて、新設作業道の代用としてタワーヤードを使った架線集材により木材の搬出施策を試行した。また、丸太検知アプリを導入し、搬出した木材の計測を試行した。

2. 4つのテーマの活動進捗報告・今年度のふりかえり・次年度の活動目標および計画

(1)木づかいガイドライン

- 根羽村でコウヨウザンの植栽を行った。単木防護柵を設置していたが、シカの食害によりほぼ全滅状態となった。
- 山梨県の南都留森林組合との連携が進んでいる。技術交流や道志村での活動を進めている。
- 「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の製作と普及を進めている。
- 「木を育てる」「木で作る」「木とくらす」をテーマとしたパンフレット「森の民のこどもたち」を製作した。また、「森の幼稚園」活動について、伊那市高遠第二・第三保育園を視察した。
- 改正公共施設建築物等木材利用促進法について、名古屋市内の学童施設を視察した。

(2)流域圏担い手づくり事例集

- 10年誌を作成していく過程で、流域の課題を解決するためには都市住民を巻き込むことが必要という認識が共有された。今回の事例集では、まちを巻き込んだプロジェクトに関わる人・団体に取材していくこととした。
- 流域圏担い手づくり事例集は、「学童保育木質化プロジェクト」をテーマに構成する。学童保育の取材対象は、あおぞら学童保育クラブ、松栄第一第二学童保育クラブ、山里学童保育クラブを予定する。プロジェクト関係者の取材は、鈴木建一氏、東海林修氏、唐澤晋平氏、小原淳氏、白井仁土氏、安井建氏を予定する。
- 12月に、「森と子ども 未来会議」の鈴木建一氏に話しを伺った。その後、名古屋市内の3つの学童保育を訪問し、話しを伺った。また、学童保育の設計を行った東海林修氏、「季の野の台所」の森川美保氏らの取材を行った。

(3)山村ミーティング・森づくりガイドライン

- 1月17日に豊田市御内市有林事務所にて「第2回矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議」を行った。今回のテーマは人材育成ということで、各組合から参加していただいた。
- 豊田森林組合の中で、有志が自主的に取り組んでいる「現業職ミーティング」が昨年夏から実施されている。現業職の現場を知る目線から、事故を起こさず、人材を育成する方策等について検討されている。
- 6月4日に串原にて森の健康診断を実施する。山の所有者を特定し、診断結果を還元していく。

(4)今年度のふりかえり・次年度の活動目標および計画

- 部会連携調整(通称：ミライ会議)を今年度発足した。今回、5回開催しており、来年度も続けていく。
- 次年度の活動目標については、今回の協議も含め1月末までに仕上げていく。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●話題提供：岡崎市森林課・岡崎森林組合

- ・岡崎市には、水守森支援隊(みまもりしえんたい)があり、林業に関するスキルアップに取り組んでいる。(板坂)
- ・「森とともに生きる」は、これからの地域の森づくりと森林組合の姿の展望のための基礎資料としていく。(眞木)
- ・急傾斜地での搬出間伐が課題。架線集材を取り入れることにより、施業地の幅が広がると思う。道を造ると山を傷めることから、架線を使った山を傷めない施業も検討していく。(池田)
- ・愛知県では、ドローンを使った計測は測量等の代わりとして認可されているのか。(今村)
 - ▶造林事業の検査要綱ではよいということになっているが、実際は運用されていないと思う。間伐など上からでは計測が難しいと思う。(池田)
- ・タワーヤードで架線集材を行うための人材育成の計画はどうか。(今村)
 - ▶緑の雇用を活用して、毎年何名か研修に行かせている。教える側の研修も行かせている。(池田)
 - ▶愛知県もメニューを用意している。県内全体の林業者の技術力アップを検討していく。(生田)
- ・明日のFWは、急傾斜地から木を出すことの大変さがわかる所と思う。そういう観点で視察してほしい。(藏治)

●木づかいガイドライン

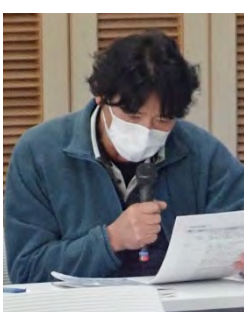
- ・矢作川流域でのいろんな木づかい活動を見える化し、それを「木づかいガイドライン」としたいと思っている。(今村)
- ・森や海辺に木のアイテムがあると、その地域の魅力が高まる。次世代参加による木のアイテムづくりは、地域の魅力を想像している気づきを与える。この意義はとても大きいと思う。(今村)

●流域圏担い手づくり事例集

- ・学童保育の木質化により、地域からも喜ばれる建設物になっていると感じた。山主さんたちが名古屋にできた学童保育で子ども達が喜んでいるのを見て、大変うれしかったと言われていたとのこと。(洲崎)
- ・いろんな方が、それぞれの思いをもって学童保育の木質化に関わっている。(洲崎)
- ・本日の白井仁士氏への取材では、空間づくりとして木を使うだけではなく、それを森づくりにつなげていくには課題も多いという話があった。(近藤)

●山村ミーティング・森づくりガイドライン

- ・どの森林組合も人材育成が喫緊の課題と思う。これからの人材育成を担う中堅の人たちと一緒にあって、一個一個学んでいく。安全管理も含め、きちんと教えられるようにしていくところから始めていくことが重要。(丹羽)
- ・現業職のメンバーが自主的に動こうとしている。自主性を損なわずに、自治的に動けるような仕組みをつくる。(丹羽)
- ・科学的根拠を持ちながら次世代に伝えていくこと。現場からの声が科学的根拠と合意をもって進められるとすれば、大きく変わっていくと思った。(丹羽)
 - ▶誰でも同じように安全に作業できるように、一つ一つ自分たちでやっていこうということはすばらしいと思う。こうした安全な山仕事を共有していこうという取り組みに感銘した。(洲崎)
 - ▶素晴らしい取り組みに心を打たれた。技能職員にこの資料を渡している。(今村)
 - ▶作業標準書を作ることは重要と思う。また、同じ業種の方から安全について教育されることは需要と思う。(高橋)
 - ▶重要なのは、現場の人たちが、事故がないようどうするかを話し合うこと。ようやく本物の標準化を現場からやりはじめた。林業労働の夜明けかと感じている。(山本)
- ・森林ボランティアが自力間伐を推進するような進め方を考えなければいけないと思う。(清水)
 - ▶とよた森林学校卒業生が、グループを組んで森林ボランティアの団体を作っている。その中で研修もしている。(山本)



今後のスケジュール(予定)

■第11回全体会議 日時：令和4年2月21日(月) 13:30~16:00 Web(オンライン)会議



◆お問合せ◆

矢作川流域懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。





発行日：令和4年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆岡崎市河原町地先の森林整備箇所を視察しました！

岡崎森林組合による「ぬかた木望(きぼう)の森」の森林整備箇所を視察しました。その他、耕作放棄地での漆植栽地、愛知県指定文化財になっている万足平の猪垣を視察しました。

日時：令和4年1月22日(土) 9:30~12:00

場所：岡崎市河原町地先 ①森林整備箇所 ②漆の植栽地 ③万足平の猪垣

案内：岡崎森林組合

参加者：14名(事務局を含む)



◆フィールドワークの記録

① 森林整備箇所 ～ぬかた木望の森～

岡崎市河原町地先の農林中金の森林再生基金(農中森力(もりちから)基金)を活用した森林整備箇所「ぬかた木望の森」を視察しました。この事業では、UAV 写真撮影やGNSS 測量等を活用した森林調査、丸太検知アプリを用いた材積の算定など、新しい技術の導入を行っています。森林整備では、新設作業道の代用として架線集材による木材の搬出施業を実施し、施業地の選択枝の幅を広げようとしています。(案内：岡崎森林組合 池田氏)



② 漆の植栽地



三河地方はかつて良質な漆の栽培地でした。文化財への利用や新産業の振興を視野に、三河漆の産地復活および岡崎漆のブランド化を目指し、2021年に「岡崎漆プロジェクト」を発足して、耕作放棄地を利用した漆栽培を開始しました。このプロジェクトは市、農協、森林組合、合同会社、名大、基礎生物学研究所などの産官学連携で推進しています。植栽地はシカの食害対策として、周囲を耐久性に優れた「亀甲網」で囲っています。(案内：額田林業クラブ 平木氏)

③ 万足平の猪垣

愛知県指定文化財「万足平の猪垣」を視察しました。猪垣は猪、鹿の被害を防ぐため、耕作地や山の裾野を囲む石垣です。額田地区(主に宮崎町)の猪垣の総延長は約50kmにもおよび、全国的にみても有数の規模です。この地域で採取される硬く平らで板状に割れやすい領家片麻岩を多く利用しています。万足平の猪垣は19世紀前半に築かれたもので、高さ約2m、底幅約1m、上幅0.6m、長さは612mです。

(案内：岡崎森林組合 眞木氏)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。



令和3年度 矢作川流域圏懇談会

懇談会通信綴り

～川部会～



発行日：令和3年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第56回川部会WGを開催しました！

6月22日（火）、第56回川部会WGを、新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。今回のWGでは、活動進捗の報告と今年度の活動目標、バスツアーの内容、公開講座について協議を行いました。また、時瀬地区の置土実験、矢作川水系流域治水プロジェクトについて協議を行いました。



日時：令和3年6月22日（火）13:30～16:45

会議場所：豊田市崇化館交流館4階 第2会議室

参加者：18名（内オンライン参加6名）※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 令和3年度の矢作川流域圏懇談会の開催方針

緊急事態宣言発出期間（まん延防止等重点措置発出期間を含む）中の開催方針、平常時の開催方針について事務局より説明がありました。今回のWGは、対面形式の人数を最小限とし、オンライン会議に重点を置いた方式で実施しました。

2. 矢作川流域圏懇談会について（設立要旨・規約）

今年度最初のWGであることから、矢作川流域圏懇談会の設立要旨・規約等について確認を行いました。

3. 令和2年度までの活動進捗報告・今年度の川部会の活動目標

令和2年度のテーマ「上下流問題」の①本川モデル ②支川モデル、「地先の問題」の③地域連携モデルについて、活動進捗の報告を行いました。令和3年度は、地域連携モデルの取組として、新たに「外部団体（生態系ネットワーク協議会等）との連携」についても取り組んでいくことを目標に加えました。

4. バスツアーの内容について

11月25・26日に実施予定のバスツアーの内容、工程について確認と協議を行いました。川部会では、現計画を基本としながら、置土実験実施箇所や鵜の首狭窄部改修場所などの候補地についても今後のWGで再検討していきます。

5. マイクロプラスチック公開講座について

7月31日開催予定のマイクロプラスチック公開講座の内容について事務局から説明がありました。マイクロプラスチックは、川ごみの問題に直結することから、広報の方法、講座後の取り組みなどについて話し合いました。

6. 時瀬地区における置土実験について

令和3年に実施した時瀬地区での置土実験について、実験の目的・方法、実施状況、今後の予定等について事務局から説明がありました。

- ◆実験の目的：将来の矢作ダム堆砂対策実施時に近い状況を創出し、下流河川環境への影響を確認・把握する。
- ◆実験の方法：時瀬河川敷公園前の河川区域内の河原に土砂を置き、洪水時に自然流下させる。効果や影響を確認・把握するため、置土の前後での物理環境調査や生物環境調査を実施する。
- ◆実施状況：令和3年3月に置土（約4,000m³）を設置。5月の出水により置土全量が流下した。物理環境調査は、河床材の調査、ドローンによる測量を実施した。生物環境調査では、魚類・付着藻類・底生動物の調査を実施した。
- ◆今後の予定：次年度以降も徐々に土砂量を増やしながら時瀬河川敷公園前にて置土実験を実施する。また、他の箇所における置土実験も検討する。

7. 矢作川水系流域治水プロジェクトについて

国土交通省が推進している「矢作川水系流域治水プロジェクト」について、事務局より説明がありました。本プロジェクトでは、事業を「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」「被害対象を減少させるための対策」「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」の3つのカテゴリーに分け、国・県・市町が一体となって流域治水を推進していきます。

8. 第11回「魚のすめる水路を作ろう」計画に参加して

矢作川環境技術研究会の野田賢司氏より、支川モデルの家下川と並行して流れる西大排水路で実施された「魚のすめる水路を作ろう」計画で実施された魚類・水生動物調査について報告されました。

9. その他

- ・2020年12月発行の矢作川流域圏懇談会10年誌の活用について、配布状況や今後の展開について話し合いました。
- ・矢作川感謝祭（9月）と三河湾大感謝祭（10月）について、今年度の開催等について状況が説明されました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●バスツアーの内容について

- ・時瀬地区での置土実験の結果が出ると思うので、バスツアーでその話しができるとうい。(内田)
- ・山で水が出て、途中のダムで水を溜め、洪水を通過させるという流域治水的な観点をカバーできるとよい。(鷺見)
- ・安永川トンネルでの治水の説明に合わせて鵜の首狭窄部改修について説明するとよい。(鷺見)
 - ▶ 鵜の首を案内する時は、左岸側にある展望台で説明している。(事務局)
 - ▶ 竜宮橋近くの堤防の所から、「山がこれだけなくなる」とかの話しをするなど。(鷺見)
- ・基本的には現計画で進めるが、その他候補なども含め再検討する。(内田)

●マイクロプラスチック公開講座について

- ・いろんな方々に公開講座を知っていただくためにも、各人が所属する団体やその会員に広めていただきたい。(光岡)
- ・「マイクロプラスチックがどこから出てきているのか」については、みなさん興味があると思う。(内田)
- ・マイクロプラスチックの種類やソースなどから、流域や支川・本川・海の繋がりを意識できるとよい。(鷺見)
- ・河川事務所のHPに「ごみマップ」が掲載されているが、矢作川と豊川にはごみの登録がない。(野田)
 - ▶ 豊川や矢作川は、河川と堤内地の距離があるのでごみが意識されない。大量のごみがあるはず。(近藤)
 - ▶ マイクロプラスチックは海岸だけで川にはないと言われていた。実際は、川にも大量にある。(近藤)
- ・マイクロプラスチックの有害性については、現時点で結論は出ていない。講座で議論できるとよいと思う。(近藤)

●時瀬地区における置土実験について

- ・置土実験により何を把握したいのか、何の影響を見たいのかなど目的がわからない。(溝口・近藤・鷺見)
 - ▶ 下流側への影響を把握し、土砂バイパスの運用方法や総合土砂管理計画への反映などを考えている。(事務局)
- ・矢作川は何が問題で、どう解決しなければならないのかを明確にし、対策や土砂管理を考えていく必要がある。その場その場ではなく、将来像をみすえて全体を動かすような協議をしていくとよい。(溝口)
- ・置土して流れていくということしか見えないので、目標などをわかりやすく示すほうがよい。(近藤)
 - ▶ 置土実験の結果とシミュレーションモデルなどから、適切な対策・運用の計画に反映させる。(事務局)
 - ▶ 矢作川流域での土砂供給可能量や通過土砂量などから検討できるようデータ整理していく。(事務局)
- ・土砂供給が増えることにより、川の像がどのように変化するかという話しまで議論できるようになるとよい。(鷺見)
- ・国土交通省、愛知県、矢作川研究所により各種実験が行われてきたが、それらを総説した研究があるとよい。(内田)
- ・漁協は「淵が埋まるのではないかと心配している。それに関するデータは必要と思う。(内田)
- ・底生動物と地形の変化、川の複雑な地形と土砂の関係などの研究が役に立つと思う。(内田)

●矢作川水系流域治水プロジェクトについて

- ・「被害対象を減少させるための対策」の土地利用規制・誘導に着手しようとしている自治体はあるか。(鷺見)
 - ▶ 豊田市と岡崎市で土地利用規制や住まい方の工夫などの計画見直しが行われると聞いている。(事務局)
 - ▶ 土地利用規制・誘導は重要と考える。浸水が想定されるところに新しい家が建てられてきている。(内田)
- ・流域治水を進めるにあたっての法整備はどのようなものか。(近藤)
 - ▶ まだ具体的な検討が進んでいないことから、流域に関する情報は持ち合わせていない。(事務局)
- ・流域治水と言いながら川の事業が大部分を占めている。土地利用など河川整備ではないところが重要と思う。(鷺見)
- ・流域治水として各施策をつなげて、矢作川全体の方向を見えるようにするとよい。(溝口)
- ・矢作川は大きな河川なので、洪水予報がしっかりできれば避難等の時間がかなりとれる。豊田市街から下流に対しては、時間情報が伝わるような対策を重点的に考えていただきたい。(鷺見)
- ・山間地の水田がほとんど無くなってきている。中山間地における水の水田貯留は再評価するほうがよい。(野田)



今後の予定

■第57回川部会WG

日時：令和3年8月17日(火) 午後 場所：鵜の首地区周辺・崇化館交流館 *詳細は後日お知らせします。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



発行日：令和3年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第57回川部会WGを開催しました！

8月17日（火）に第57回川部会WGが新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催されました。今回のWGでは、現地視察として、水位低下対策事業が計画されている矢作川鵜の首地区を視察しました。話し合いでは、時瀬地区の置土実験、矢作川の砂州の変動等について協議を行いました。



日時：令和3年8月17日（火）13:30～17:05

会議場所：豊田市崇化館交流館 第1研修室

参加者：22名（内オンライン参加6名）※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 現地視察：鵜の首地区～明治用水頭首工

豊田市街地の浸水被害対策として、鵜の首地区水位低下事業が進められています。現地視察では、鵜の首地区から明治用水頭首工の区間について視察し、東海豪雨時の豊田市街地の浸水被害の状況、鵜の首狭窄部の水位低下対策事業等について豊橋河川事務所より説明を受けました。



2. 話し合い (1)時瀬地区における置土実験の中間報告について

令和3年に実施した時瀬地区での置土実験について、6/22WGでの質問事項及び物理環境調査の中間報告として、事務局より説明がありました。主な説明事項を以下に記します。

【時瀬地区での置土実験に関する主な説明事項】

- ・ 下流河川環境への総合的な影響を把握し、適切な土砂バイパスの運用、置土の実施方法を決定するために実施する。
- ・ バイパス土砂量約17万 m^3 の1/3程度の5万 m^3 を目標に、段階的に置土量を増やしていく。
- ・ 時瀬地区置土実験の中間報告として、河床の地形測量結果を示した。生物環境調査の結果については、結果がまとまった段階で報告する。

3. 話し合い (2)矢作川の砂州の変動について

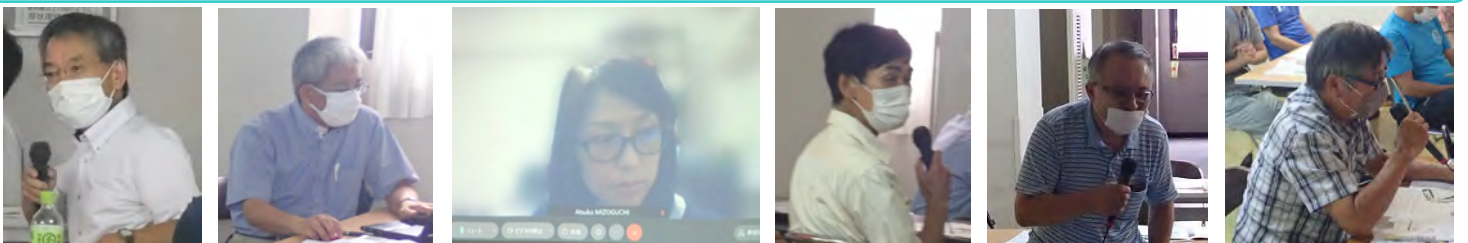
名城大学 溝口先生により、「中規模河床形態と矢作川の砂州区間の変動」について講義していただき、矢作川の砂州の変動をもとに「望ましい川の形」等について意見交換を行いました。主な講義内容を以下に記します。

【矢作川の砂州の変動に関する主な説明事項】

- ・ 土砂に応じて水位も変化し、砂が流れてくれば水位が下がる。水位が下がれば、それだけ流速が早くなる。
- ・ 礫間を埋めるかのように砂が流れる。砂の供給がなくなれば礫が出て来る。砂が動いて、礫も動き出せば、その条件に合った地形ができてくる。環境と治水の両方から、どういう状態が矢作川にとってよいのかを考える必要がある。
- ・ 川の環境は常に同じ状況ではない。砂だけ、水だけ流して解決するものでもない。砂州というのはやっかいで、動きによっては災害も起こりうる。
- ・ 川がほとんど動かなくなって、一気に動きにくい砂州ができあがるというのがわかった。砂が動けば災害の危険が高まるかもしれないし、余計な植物が生えなくなるので災害の危険は下がるのかもしれない。このところをはっきりさせて、下流部のよりよい環境を創っていく必要がある。
- ・ どれくらいの流量で何が起こって、どれくらいの粒径で覆われていればよりよい環境で、下流の海まで砂を届けられるのかを考える必要がある。

4. その他

- ・ 10月2～3日に開催される「いい川・いい川づくりワークショップ」について説明がありました。
- ・ 7月31日に開催された第1回公開講座の状況について報告がありました。
- ・ 矢作川感謝祭（9月）と三河湾大感謝祭（10月）について、内容や開催の見通し等の説明がありました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●時瀬地区における置土実験の中間報告について

- ・今回の土砂量 4000m³ の考え方を教えてほしい。(山本)
 - ▶ 平成 29 年の給砂実験が約 2000m³ であったことから、その倍の量である 4000m³ から始めた。今年度末は、時瀬で 8000~9000m³ を計画している。ただし、置土による治水・利水に影響がないよう、モニタリングしながら進めていく。(佐藤)
- ・「淵内岸で最大 2m の堆積がみられた」とあるが、直下流の中州の影響か？(橋本)
 - ▶ 堰堤のバックがどこまで効いているかなど、いろんな条件が重なっていると思われる。(溝口)
 - ▶ バックの影響は、支川が合流するあたりまで。笹戸堰堤のバックウォータの影響はないと思われる。(橋本)
 - ▶ 笹戸堰堤のバックの影響が支川あたりまでと思わせるのが、この中州なのではと思う。溜まりやすい状況ができていて、中州を越えられない流量の時は、その上流部に影響がある。(溝口)
- ・秋の出水でまた動く可能性がある。秋以降に再度測量する予定はあるか？(内田)
 - ▶ 年度内、秋以降にもう一度測量することを予定している。(佐藤)
- ・難しいかもしれないが、置土した砂礫をトレースできればよいかと。まとまった堆積が今回みられたということで、その中に置土したものがあれば分かりやすくなる。(鷺見)
- ・「この辺りに到達するだろう」ということを予測し、影響範囲を考えた上で、視点を明確にするとよい。(溝口)
- ・土砂管理の検討会や委員会は、どれくらいの頻度で開かれて、検討しているのか。(近藤)
 - ▶ 毎年、年度末に開催している。ただし、一昨年度は置土実験ができなかったこともあり、検討委員会に諮ることができなかった。昨年度も関係機関との調整を進めていたが、開催することができなかった。(佐藤)
- ・海部会としては、ダムの上の土砂をダンプで海まで運ぶほうが予算的にもよいかと思う。(高橋)
 - ▶ 検討委員会では、土砂バイパスがよいということになった。ダンプで運ぶとかなりの台数が必要となる。(佐藤)

●矢作川の砂州の変動について

- ・砂を流すと水位が下がるという実験結果は意外だった。この現象は矢作川のどこに当てはまるのか。また、実際の設計などをやる場合に考慮しないといけないのか。(山本)
 - ▶ 矢作川で置き換えるのは難しいが、実験はかなり急勾配のところを想定した実験である。水路の実験でみられる現象をいかに河川に適用して考えていくかというのが課題とされている。(溝口)
 - ▶ 川によっては、粗度を変えても形状の影響が大きいこともある。砂を入れることによって地形自体が変わってしまうこともある。よって、まだ実験からの知見を実務に持っていく段階ではない。(溝口)
- ・土砂と水を合わせて考えなければいけない。最近の災害を考えると、土砂の影響は無視できず、今のシステムでは説明できないことも起こりうる。(溝口)
- ・川の形というのは、大きな洪水の時にできる砂州や地形だけではなく、普段の出水で起こっていることも重要で、普段の出水でどれくらいの川の形になるのかというところは考えなければいけない。(鷺見)
- ・砂州の形は流況だけでは決まらないし、川の傾きや幅、粒径などで砂州が変わってくる。そこを理解した上で、どうなったらよいのかという話しをしなければいけない。(鷺見)
- ・現場の方から、どんな機能をここに埋め込みたいかをまとめ、どんな流況やどんな土砂が来なければいけないのかをリクエストしなければいけない。(鷺見)
- ・上流部の話しと下流部の話し、そして連なっているダム群をどう解決していくかというのは、それぞれが話し合いの場に出て、進めていかなければいけない。
- ・東名高速や愛知環状あたりは上流と比べると砂州の地形が動いている。巴川の土砂が効いているのかと思う。(内田)
- ・どのようなダム操作をすると、河川環境や生態系に対してよい操作になるのか。(橋本)
 - ▶ 「どんな川を目指すのか」というのと、「上からどれくらいの土砂供給があるのか」でかなり変わると思う。ダムによって中小洪水がカットされて動きにくくなっているという現状があるので、それなりに土砂供給があれば少しでも動かすような流量をキープするというのも大事になってくる。(溝口)
 - ▶ 下流側の環境を維持するというのは、土砂の運用と共にあり得るのではないかと思います。災害が起きない程度に川を動かす。それは、下流の川の形をどうするかによって議論も変わってくる。(溝口)

●その他

- ・10/2~10/3「いい川・いい川づくりワークショップ」について、矢作川流域圏懇談会の参加をお願いする。(近藤)
- ・第 2 回公開講座は、ネオニコチノイド系農薬をテーマに秋に開催する。(事務局)
- ・9/5 の矢作川感謝祭、10/24 の三河湾大感謝祭とも実施する方向で進んでいる。(事務局)

今後の予定

■第 58 回川部会 WG

日時：令和 3 年 11 月 19 日(金) 終日 場所：豊田市内 *詳細は後日お知らせします。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



発行日：令和3年12月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第58回川部会WGを開催しました！

11月19日（金）に第58回川部会WGが新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催されました。今回のWGでは、現地視察として、置土実験を行っている時瀬・越戸地区、ピオトープを造成している初音川を視察しました。話し合いでは、矢作川の砂州変動等について協議を行いました。

日 時：令和3年11月19日（金）9:00～17:40
場 所：（現地視察）時瀬・笹戸堰堤湛水域、越戸ダム、初音川ピオトープ
（室内会議）豊田市崇化館交流館 第1研修室
参加者：31名（内オンライン参加5名）※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 現地視察：時瀬・笹戸堰堤湛水域、越戸ダム、初音川ピオトープ

置土実験を実施している時瀬地区と越戸ダム下流を視察し、置土実験の状況、実験の成果等について説明していただきました。その後、境川水系逢妻男川支流の初音川に造成された初音川ピオトープを視察し、ピオトープ造成の経緯、愛護会の活動、整備の状況等について説明していただきました。



時瀬置土実験付近



時瀬：水生昆虫観察



越戸ダム下流：置土実験付近



初音川ピオトープ：造成池



初音川ピオトープ：草刈試験地

2. 話し合い 矢作川の砂州の変動について 話題提供：名城大学教授 溝口敦子様

名城大学 溝口先生により、「中規模河床形態と矢作川の砂州区間の変動」について講義していただき、矢作川の砂州の変動の仕組みから「望ましい川の形」等について意見交換を行いました。主な講義内容を以下に記します。

【矢作川の砂州の変動に関する主な講義内容】

- ・ 供給される砂に応じて川が動き、地形を作っていく。さらに、砂の粒径によって砂州の形は変化する。
- ・ 実験水路に砂を流した場合、元の河床より粗い砂を入れると水位が上がり、細かい砂を入れると水位が下がる。上流から供給される土砂の量、質が、場の粗度や地形を決めていく。砂が動くことにより、その場に合った地形ができる。
- ・ たくさん砂が来ていれば砂州は活発に動くが、来なくなると砂州はあまり動かなくなる。川は、上流から来る土砂量に応じて、川幅や形、粗度や勾配を変化させることで調節し、下流に排出する。つまり上流からの土砂供給は重要である。ただし、砂だけ供給されても水がないと流れないので、必要な時に必要な土砂と水の量があると、「いい川」が出来上がってくるのかと思う。
- ・ なお、砂が流れると川が活発に変化し時には河岸侵食を起こしたりするため、管理としては一層難しくなる。
- ・ 川では同じ環境が、同じ状態で常にキープされるのはありえない。健全な河川環境を保つには、土砂が来て、それなりの出水で攪乱され、地形が変化したり一部だけ状態が変わったりすることも重要である。なお、大規模出水が年1回あることが重要なのか、中小規模の出水が頻繁にきていることが重要なのかは、川によって異なる。
- ・ 矢作川はダムが多くあり、そのほとんどが電力ダム。洪水調節機能を有するダムは限られており、利水の都合により水位がコントロールされている。以前はこうしたコントロール下でも矢作川は比較的複列砂州が保たれやすい状況だったが、一部の区間は粗粒化し交互砂州ができやすい条件に変わってきており、砂州が動きづらくなっている。
- ・ 出水で大きな交互砂州ができしまったら、複列砂州に戻りにくい状況になる。以前は複列砂州が保たれていたが、粒径が大きくなることで、全体的に動かない川になってしまい、砂州も動かない状況になってしまっている。
- ・ 粗粒化が進んでしまうと、砂が供給されない限りもとには戻りにくく、植物も生えてくるし、近づきにくい川になっていく。
- ・ 河床変動や流砂量に関する数値解析は、おおよその傾向は予測できても、時間変化などを表現できるところまでは行っていない。特に砂河川は難しいと思う。川自身から学び、調べながら学んでいくことが必要と思う。

3. その他

- ・ 11/27に開催された第2回公開講の状況について報告がありました。
- ・ 10/2～10/3に開催された「いい川・いい川づくりワークショップ」について報告がありました。
- ・ 10/24に開催された三河湾大感謝祭について報告がありました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●矢作川の砂州の変動について

- ・矢作川の洪水のほとんどは複列砂州形成の領域にあり、動かない砂州の領域ではない。大きな洪水が来たら交互砂州をつくる可能性もあるとの話したが、洪水がたまたまヒットしたら複列砂州をつくらうとするかもしれない。(鷺見)
- ▶ 低い流量でも砂を流していない状態であるなら、粗粒化が進み、動かなくなる。今は、その状態に加えて、大きな洪水の時にできた交互砂州が陸域をつくって樹林化が進行している状況なのかと思う。(溝口)
- ・水量や砂の大きさなどのお話から、「いい砂州」とはどのような砂州を言うのか？(光岡)
- ▶ しっかり動いていくような砂州が、「いい砂州」と思っている。攪乱がなく、固まってしまうと樹林化が進行し、どうしようもなくなる。矢作川には、砂が活発に動き海まで砂を流せるような砂州が必要と思っている。(溝口)
- ▶ 砂が活発に動いているところで水生昆虫を調べると、造網性のトビケラが少なく、カワゲラ類やヒラタカゲロウが多くいる。アユ釣りをしている人も多くいる。(内田)
- ・生物多様性で川を考えると、交互砂州のほうがよいと感じる。複列砂州はあまりよくないと感じる。(光岡)
- ▶ 交互砂州のほうが川の中に明確な瀬淵構造ができやすい。淵の深掘れや河岸浸食などのリスクもあるが、瀬淵が明確になるので、場所によってはそちらのほうがよいということもある。(溝口)
- ・オオカナダモは、砂が来たら根を張り、抜けにくい状態になるとのことだが、底が動いていたらそのような状態にはならないのではないか。それなりに動く川であれば、樹林化も少なくなり、良い環境が保たれると思う。(溝口)
- ・オオカナダモの根は栄養吸収ではなく、アンカーの役割を果たしている。土砂供給でオオカナダモを埋め尽くすくらい礫面より上に砂が堆積したら、オオカナダモはどうなるのか。(鷺見)
- ▶ 越戸ダム下の置土は、オオカナダモ対策も目的としている。現段階の置土実験ではそこまでの土砂量を置いていないので今後の課題と考えている。(建技)
- ・2007年にオオカナダモが大繁殖した。そのころから、深みに2cmくらいの細かい砂利が溜まるのがみられるようになった。それと、矢作川での濁水フェンスが機能し、濁水が供給されなくなったのとオオカナダモの繁殖が同じころになる。(内田)
- ▶ 2011年の出水以降、オオカナダモは減少している。限られたところに残っている状態である。(建技)
- ▶ オオカナダモは、東海豪雨の前は平瀬には生えておらず、淵だけに生えていた。2007年の大繁殖の後には、出水があると少し減って、何年も出水が起きないとじわじわ増えてくる状況。(内田)
- ・置土実験について、今後の予定はどうか。(溝口)
- ▶ 今年度内に、時瀬で9000m³の置土を予定している。その他、小渡で4000m³の置土を予定している。(事務局)
- ▶ 置土はされているが、「どれくらいの量を置くと効果があるか(河川に影響があるか)」という試算が必要だと思う。(溝口)
- ・置土実験の結果を踏まえた検討会や議論の場などはどうか。(近藤)
- ▶ ここ2年、検討委員会が開催できなかったが、今年度は、2~3月に実施する予定。また、できれば河道ワーキングを1~2月に実施する予定。(事務局)
- ・上流のダム群をどうやって回避し、最下流のダムから砂を通過させるかについて、技術検討が必要と思う。(溝口)
- ・難しい問題はあるが、砂を下流に届ける川というのを考えていく必要がある。ダムから事前放流などを行う際、川にとって重要な流量をうまくコントロールして出せればと思う。(溝口)
- ・下流域は河積が少ないので砂が流せないというのが、実は流すことで河道が攪乱されるようになり河積が確保される可能性もある。砂を通過させた時に創出される川の状態は、矢作川として検討が必要であると思う。(溝口)
- ・土砂は重要であることから、あるべき量の水の流れ方というのは認識しておく必要がある。(近藤)
- ・土砂の関係から、矢作川の望ましい形を議論していく必要がある。ご協力をお願いします。(内田)



今後の予定

■川部会まとめの会

日時：令和4年1月14日(金) 午後 場所：崇化館交流館 *詳細は後日お知らせします。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



発行日：令和4年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第13回川部会まとめの会を開催しました！

1月14日（金）に第13回川部会まとめの会が新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催されました。まとめの会では、今年度の活動のふりかえり、次年度に向けた目標（活動計画）等について話し合いました。

日時：令和4年1月14日（金）14:00～16:00
会議場所：豊田市崇化館交流館 3階 第1研修室
参加者：21名（内オンライン参加5名） ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 今年度のふりかえりについて

今年度は3回のWGを実施し、設定した3つの課題について以下の活動を行いました。

◆本川モデル

- ・国土交通省豊橋河川事務所より置土実験について説明いただき、目標と実験の進捗状況について共有しました。
- ・名城大学溝口教授より、土砂の流れにより形成される河床形態や砂州について講義していただきました。
- ・国土交通省豊橋河川事務所より、鵜の首地区水位低下対策事業の進捗と事業効果について、現地にて情報共有を行いました。また、「矢作川流域治水プロジェクト」に関する情報共有を行いました。
- ・次年度実施が計画されているバスツアーについて、川部会が担当する阿摺ダム、明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川の内容について再確認しました。

◆支川モデル

- ・境川水系の初音川に整備されたピオトープを視察し、整備の成果や課題について情報共有を行いました。

◆地先の問題

- ・ごみ問題に関する情報共有として、市民部会主催のマイクロプラスチックに関する公開講座に参加しました。
- ・流域圏懇談会設立20年を見据えた「部会連携調整」の設立について情報共有を行いました。
- ・人間環境大学との連携、生態系ネットワークとの連携への取り組みについて情報共有を行いました。

2. 次年度の活動目標・活動計画の設定

これまでの活動成果や課題をふまえ、次年度に向けた目標（活動計画）について話し合いました。話し合いで決まった主な目標や計画、提案を以下に記します。

- ・海部会・川部会による合同部会開催の提案が海部会よりありました。上下流問題（土砂運搬）に関する合同部会として、鵜の首水位低下対策事業と干潟造成について協議する会議の実施を具体的に計画する。
- ・中部電力のデータなども活用し、矢作川本川の土砂移動について充実した議論を実施する。
- ・生態系ネットワーク協議会や人間環境大学など外部との連携を積極的に図っていく。
- ・来年度の公開講座で川部会が関わるテーマとして、防災をテーマとした講座の実施を検討する。

3. その他

11月27日に実施されたネオニコチノイド系農薬をテーマにした公開講座の開催結果について報告がありました。川部会からは15名が参加しました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度のふりかえり・次年度に向けての目標(活動計画)設定について

■上下流問題(本川モデル・支川モデル)

- ・越戸ダム下流の置土実験をやる時に、どういふ土砂が通過しているかを調査できないか。現時点での通過の材料と溜まっている材料について整理する機会があるとよい。(鷺見)
- ・中部電力のダム堤体近くの土砂の堆積調査の結果から、どういふものが下流に流れだしているのかの推定ができるかと思う。それと置土実験の関係を調査するなど。(内田)
- ▶ 将来的な河床や粒径など、一次元シミュレーション上でのデータはだしている。また、中部電力の調査データなども使いながら検証する必要があると考えている。(事務局)
- ▶ 調査するほうが良いと思うことが多数ある。一次元のシミュレーションでは土砂の流れは表現できない。測らないとわからないことがたくさんあるという認識を持つ方がよいと思う。(溝口)
- ・ダムの土砂と海ということで、海部会でいろいろ考えていると聞いている。合同部会や土砂の調査をどうするかなど、来年度の事業計画として全体会議で提案するとよい。(近藤)
- ▶ 合同部会で提案されている鵜の首などちょうどよいタイミングだと思う。(鷺見)
- ▶ 置土実験の成果が出てきていると思うが、次年度では、中部電力の協力もいただいて、矢作川の土砂移動に関して充実した議論を行いたい。(内田)
- ▶ 愛知県では、河道掘削や河道内樹木の伐採など昨年度から本格的に事業をやりはじめた。総合土砂管理の話題等で情報提供していきたい。(戸田)
- ▶ 土砂管理については、愛知県、中部電力の情報提供に基づいてしっかり議論していく。(内田)
- ▶ 本来は川から土砂が出てきて、それで沿岸の浜が形成されるが、現状はどうなのかを語れる方の話しを聞きたい。そこが川と海の接点になっているので。(鷺見・溝口)
- ▶ 河口部の土砂粒径がどう変わってきているのかをたどりたい。矢作川自然再生事業で地形変化は調べられているが、粒径ベースで土砂がどのように変わってきているのかという点。(鷺見)
- ▶ 海部会からの合同部会の提案を受けたいと思う。来年度、具体的に計画していく(内田)
- ・砂が細かすぎるとアサリの幼生が落ちず、それが減少要因になっている。矢作川から運搬した砂は粒が細かくなり、不ぞろいなのでアサリが隙間に入り、生息しやすい。若干だがアサリの漁獲量もどりつつある。(岡村)
- ・中流域の砂を三河湾に持つてくることについて、浜辺の方々にとって違和感はないか。(光岡)
- ▶ 地元の漁師さんの要望に基づいて計画しているので、違和感はないと思う。(岡村)
- ▶ 砂を中流域から運んで持つていくことは不自然なこと。砂が海に流れる環境が整っていることが望ましい。(光岡)
- ▶ 人工的に土砂を持つてきて干潟を造成した時に、アサリも含めた底生生物の生息など干潟が持つている多様性の回復についても考えていく必要がある。(内田)
- ▶ 干潟が再生されると底生生物がどれくらい回復し、水質が浄化されるかという研究はやっている。(岡村)
- ・河床を掘削した後、比較的早い時期に河床の地形変化や土砂の溜まりなどをモニタリングするとよい。(鷺見)
- ▶ 愛知県では、河床掘削したところのモニタリングは予定していないが、懸案事項であると認識している。(戸田)

■地先の問題

- ・生態系ネットワーク協議会との連携について動き始めている。また、人間環境大学といっしょに活動を始めようとして話を進めている。川部会のテーマでは、土砂の話などで興味をもってもらえるかもしれない。(近藤)
- ・流域圏懇談会から生態系ネットワーク協議会に出ていくような相互のやりとりが必要かと思う。(近藤)
- ▶ 流域圏懇談会として、生態系ネットワーク協議会との連携を積極的に図っていくことを基本方針とする。(内田)
- ▶ 西三河生態系ネットワーク協議会はおそらく里山をベースとして活動している。流域圏懇談会としては、ある意味全体をカバーしているので、話題ごとに情報提供するということはありうると思う。(鷺見)
- ▶ 具体的に目標を一つにしないと連携は難しい。目標を明確にすることを念頭にさぐる必要がある。(近藤)
- ・来年度の活動として、流域の方々から川に親しむというのも大きな課題。支川から本川にどんな影響を及ぼしているのかという課題もある。ポイント、ポイントで望ましい状態を考えていく必要がある。(光岡)

■その他

- ・来年度公開講座で情報発信する提案が出ている。川部会からも検討していただければと考えている。(事務局)
- ▶ 来年度が47災害から50年という節目となることから、来年度の公開講座のテーマとして取り上げられることを市民部会で検討している。川部会でも関わられるテーマと思う。(近藤)

今後の予定

■第11回全体会議 日時：令和4年2月21日(月)13:00~16:00 Web(オンライン)会議

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

令和3年度 矢作川流域圏懇談会

懇談会通信綴り

～海部会～

矢作川流域圏懇談会通信

R3 海部会編 vol.1



発行日：令和3年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第46回海部会WGを開催しました！

6月14日(月)、第46回海部会WGを、緊急事態宣言発出期間中における新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。今回は、令和3年度の活動計画、バスツアー計画等について話し合いました。また、吉田漁協の石川組合長より、アサリ漁業の現状についてご報告いただきました。

日時：令和3年6月14日(月) 13:00~16:00
場所：西尾市役所会議棟2階 第4会議室
参加人数：23名(内オンライン参加6名) *事務局を含む



◆主な活動内容

1 矢作川流域圏懇談会について(設立要旨・規約)

矢作川流域圏懇談会の設立趣旨、規約等の確認を行いました。また、緊急事態宣言発出期間(まん延防止等重点措置発出期間を含む)中の開催方針、平常時の開催方針について事務局より説明がありました。今回のWGは、緊急事態宣言発出中であることから、対面形式の人数を最小限とし、オンライン会議に重点を置いた方式で実施しました。

2 令和2年度までの活動進捗報告・今年度の計画(WG日程の決定)

令和2年度の3テーマ、「ごみの問題」「豊かな海の再生に向けた取り組み」「海と人の絆再生」について、活動進捗の報告を行いました。令和3年度は、3テーマに「土砂の問題」を加えて活動を実施していく計画です。また、『きれいな海=豊かな海』ではない』という認識について、協議しました。

3 バスツアーの内容について

11月25・26日に実施予定のバスツアーの内容、工程について確認と協議を行いました。海部会では、2日目の矢作川浄化センターと東幡豆海岸の2カ所の視察を担当します。バスツアーの前のWGで具体的な内容を決めていく予定です。

4 マイクロプラスチック公開講座について

7月31日開催予定のマイクロプラスチック公開講座の内容について事務局から説明がありました。マイクロプラスチックは、「ごみの問題」に直結することから、広報の方法、講座後の取り組みなどについて話し合いました。

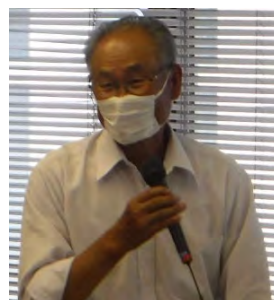
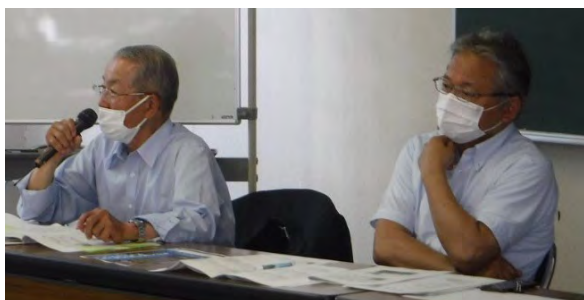
5 アサリ漁業の現状について・栄養塩類に関する資料

吉田漁業協同組合の石川組合長より、矢作川浄化センター放流口~放流先海域における窒素・リン等の計測結果とアサリ・のりの現状について報告していただきました。報告の主な内容は以下の通りです。

- ・「愛知県の漁業と漁場における栄養塩の現状」(愛知県水産試験場)では、栄養塩不足が三河湾・伊勢湾で顕著になってきており、アサリ等への影響が大きくなっていること示している。
 - ・矢作川浄化センターによる放流口一帯の栄養塩調査。リンの増量放流により、リンが増加してきているが、矢作川からのリンの供給は無いに等しい。増量放流により、ノリ養殖期のリンは豊かになってきているが、窒素の不足がノリの品質に大きく影響している。また、小型鞭毛類の増加も栄養塩不足の要因のひとつと考えられる。
 - ・愛知県企業庁による矢作古川と矢崎川の河口での水質調査の結果をみると、クロロフィルaの濃度があまりに低い。これがアサリ減少の大きな原因ではないかと感じている。
 - ・「豊かで、きれいな海」について国民すべてが理解できる基準が設定され、海が蘇ることを望んでいる。
- 伊勢・三河湾流域ネットワークの井上氏より、栄養塩に関連する資料として、水環境学会誌に掲載された報文「ノリやアサリの増殖のための窒素・リン負荷量」の説明がありました。

6 その他

- ・2020年12月発行の矢作川流域圏懇談会10年誌の活用について、配布状況や今後の展開について話し合いました。
- ・矢作川感謝祭(9月)と三河湾大感謝祭(10月)について、今年度の開催等について状況が説明されました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●令和2年度までの活動進捗報告

- ・『「きれいな海＝豊かな海」ではない』というのは分かりづらい。たくさんの生き物が生息し、漁業生産も確保できることから、「きれいで豊かな海をめざす」ということだと思う。わかりやすい表現にするほうがよい。(鈴木)
▶ 食べられる餌がたくさんいる海がつかれないと「豊かな海」にはならない。検討していくとよい。(井上)

●今年度の計画

- ・計画では、海部会 WG を 2 回、まとめの会を 1 回実施する予定である。(事務局)
▶ バスツアーまでに 2 回の WG、バスツアー後にもう 1 回 WG を実施し、まとめの会につなげるとよい。(青木)
・今年度は土砂の問題がテーマに加わっていることから、それも含め議論していく。(青木)

●バスツアーの内容について

- ・海岸の視察では、ノリだけでなく、干潟の生き物なども計画するとよい。(石川：東幡豆漁協)
・次回 WG を東幡豆海岸でやるのもよい。きれいな海、豊かな海の問題も含め、海を見ながら議論するなど。(青木)

●マイクロプラスチック公開講座について

- ・河川を流下するプラスチックごみなどは河川ごみ、都市部のごみの問題。また、海の栄養塩の問題はごみも関わっている。そういう流域としてのつながりがあることを認識することが重要。(石田)
- ・マイクロプラスチックでけっこう多いのが農業で使う肥料の合成樹脂。対応が難しい時代になってきた。(井上)
- ・奈佐の浜プロジェクト、川ごみネットワークなど広く広報する予定。広く外に広報することが重要。後援などをとっていくと情報発信しやすくなる。(近藤)
- ・海部会は知ってもらいたい問題が多くある。公開講座の後に海部会 WG をやるのであれば、聞きたいという人が出てくる可能性もある。ごみ問題を広く認識してもらうことは重要で、次の 10 年に向けたスタートと感じる。(近藤)
- ・公開講座のチラシを作成したので、広報活動に使っていただきたい。また、HP に上げているので広報に活用していただきたい。(事務局)

●アサリ漁業の実情について

- ・環境基準の類型指定が西三河地区の特性を表していない。アサリの生産を考えると、Ⅲ類型からⅣ類型に近い値を維持しないと、アサリの生産が持続的に確保できない。Ⅱ類型ではアサリは生育できない。現状から類型指定や総量削減の枠などを見直す必要がある。(鈴木)
- ・環境基準がⅡ類型指定されたのは、利水目的に「水浴」があるため。利水目的は社会情勢により変わってくる。その変化に応じて、類型指定もフレキシブルに検討していかなければならない。(鈴木)
- ・リンの他に窒素の量もプランクトンの発生に関係している。窒素の増量放流は実施可能か。(石川：吉田漁協)
▶ リンに絞って管理運転しているのは、①植物プランクトンの目安であるクロロフィル量とリンの相関が強い、②管理運転技術でリンはコントロールしやすいという 2 つの理由がある。緊急的な対応策として、リンの管理運転で増量放流するべきということでスタートしている。(鈴木)
▶ ノリやアサリに必要な窒素やリンの量を明らかにし、管理運転の方法を検討することが必要。(鈴木)
- ・アサリの生産はよくなっていると言われたが、現状はどうか。(青木)
▶ 今年は春の雨に助けられて貝の育ちがよい。昨年秋の貝で冬を乗り越えた個体があり、今年は増量放流の効果がでてきている。やや明るい日差しが出てきたと思うが、まだ貝で生活していけるレベルではない。(石川：吉田漁協)
- ・2000 年代の頭辺りから、雨が降ってもプランクトンが増殖しない。つまり、雨が降っても、窒素やリンは流れてこない。海の生産を支える意味でも下水処理施設が最重要の施設となってきている。下水処理施設の方々にこの実態を理解していただいて、社会実験としての管理運転に協力していただきたい。(鈴木)
- ・今、我々の漁場では、養鰻池の替え水が出て来る漁場でのノリの品質が一番よい。(石川：吉田漁協)
- ・石川組合長より説明のあった栄養塩の状況とアサリの関係の話は、全国あるいは地域の人たちが目にすることができるデータとして発表してほしい。(井上)

●その他

- ・10 年誌は矢作川流域圏懇談会 HP にアップされたので紹介しやすくなった。かなり配ったが好評である。増刷の予定はどうか。(近藤)
▶ 予算などから増刷について検討していく。(事務局)
- ・矢作川感謝祭は 9 月実施で検討中とのこと。三河湾大感謝祭は 10 月 24 日開催で進めているとのこと。(事務局)

今後の流域圏懇談会の予定

■第 47 回海部会 WG (日時) 令和 3 年 8 月 4 日 (水) 13:30~17:00

場所：東幡豆海岸

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



発行日：令和3年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第47回海部会WGを開催しました！

8月4日（水）、第47回海部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。今回は、東幡豆海岸の現地視察を行いました。話し合いでは、一色干潟観察会等の報告と協議、流域治水・置土実験の概要説明、公開講座・バスツアーなどの報告を行いました。

日時：令和3年8月4日（水） 13:30～17:20

場所：東幡豆海岸・東幡豆漁協事務所

参加人数：23名（内オンライン参加4名） *事務局を含む



◆主な活動内容

1 東幡豆海岸 現地視察

東幡豆海岸を踏査し、砂浜に打ち上げられたアオサやアマモなどの海洋生物、ウミネコなどの鳥類の状況を観察しました。また、漂着ごみの状況を視察しました。



2 話題提供①（矢作川環境技術研究会 野田賢司氏）

矢作川環境技術研究会の野田賢司氏より、海に関する各種活動について報告していただきました。報告の主な内容は以下の通りです。

- ・ 一色干潟観察会：愛知万博以降実施されていた一色干潟観察会の平成19年から平成22年の活動の様子が報告された。当時の体験型活動では、海岸清掃した後、干潮になった干潟で生物観察などが実施され、参加した子どもたちや大人たちはアサリがたくさん採れて多様な生き物が棲む干潟の環境を楽しく学んでいた。
- ・ 環境保全活動報告：豊川河口の前芝海岸での海岸清掃、生物調査の活動の状況が報告された。また、魚介類の乱獲の問題、豊川浄化センターの管理運転とアサリなど底生動物の状況などが報告された。

3 話題提供②（事務局）

事務局より、国土交通省が推進している「矢作川水系流域治水プロジェクト」について、また、時瀬地区における置土実験について、概要を説明しました。

- ・ 矢作川水系流域治水プロジェクト：本プロジェクトでは、事業を「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」「被害対象を減少させるための対策」「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」の3つのカテゴリーに分け、国・県・市町が一体となった「流域治水」を推進している。
- ・ 時瀬地区置土実験：令和3年に実施した時瀬地区での置土実験について、実験の目的・方法、実施状況、今後の予定等について事務局より説明した。実験では、下流河川環境への効果や影響を確認・把握することを目的に、物理環境調査・生物環境調査を実施している。今後は、徐々に土砂量を増やししながら、時瀬河川敷公園前、他の箇所にて置土実験を実施していく。

4 その他

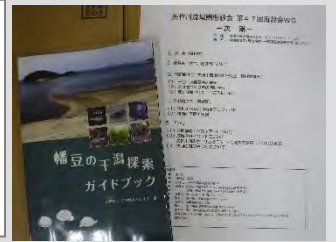
- ・ 7月31日に開催された、第1回公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」の状況について、報告されました。また、11月に実施予定のバスツアーについて、説明がありました。
- ・ 矢作川感謝祭（9月）と三河湾大感謝祭（10月）について、内容や開催の見通し等の説明がありました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●東幡豆 現地視察

- 東幡豆干潟は貴重で、愛知県では唯一のトンボ干潟である。(石川)
- この干潟にはさまざまな生き物が生息している。アサリの天敵なども生息しているが、多様な生き物がいる。そのような現場を知ることが、一番大事なことである。そのためには、現場に来てもらうのが一番だ。海のことを、さらに知っていただくとありがたい。(石川)
- この干潟周辺で見られる鳥は、ウミネコが多い。海の掃除屋と呼ばれ、流れ着いたものを食べている。浅い場所に食べ物などが流れ着きやすいため、東幡豆周辺には、多くのウミネコが集まっている。浅い場所には、ごみもたまりやすい。(高橋)



●話題提供①

- 釣り人が多くなっており、釣り針がそのまま捨てられる。釣りを楽しむのはよいが、気を付けてほしい。(石川)
- 前芝海岸には漁業権はないのか？ 一色干潟では、外国の人が来て、いろいろなものをたくさん採っている。(高橋)
 - ▶ 漁業権はない。豊川汽水域ではシジミ採りが盛んだが、無法状態となっている。河口のハマグリ採りも同様になってきた。(野田)
 - ▶ 六条潟では、三河港の港湾計画で漁業権は全て放棄された。伊勢湾・三河湾では、ハマグリなどの密漁が多い。漁業が営まれなくなれば、必然的に秩序もなくなる。漁業に従事する人がいなくなれば、その場は荒廃する。(鈴木)
- ある程度、捕ってはいけないという規制はあるのか？ (青木)
 - ▶ 一応、特別採捕許可がない人は捕ってはいけない。例えば、愛知県のアサリ資源の維持・培養という目的から逸脱し、稚貝をどこかに売るとかはできない。(鈴木)
 - ▶ 柵を設置し、簡単に入れないようにするなどの対策をとっている。(石川)
- 三重県の桑名周辺で養殖されているハマグリの子孫が三河湾にも広がっているのではと考えている。(野田)
 - ▶ 元々の原因は桑名の赤須賀地先だと思う。伊勢湾と三河湾は生き物からみると一体である。どこかに再生産可能な母群が残っていれば、資源の回復は期待できるということだろう。(鈴木)
- 三河湾は栄養状態が低かったのがハマグリが中心だったが、栄養状態が高くなってきたので、アサリに変化した。しかし最近、栄養状態は低くなってきており、アサリにも影響している。漁業者の経済活動を支えるという面で、一定の栄養水準の管理が必要だと思う。(鈴木)

●話題提供②

◆矢作川水系流域治水プロジェクト

- 豊田の街は、矢作ダムが竣工し、ある程度治水が可能となったことにより、成り立っているといえる。(高橋)
- 流域治水というと、いかにも新しい手法のように思われるが、霞堤などにみられるように伝統の技でもある。(井上)
- 都市の中に水を溜めるような大規模な整備は難しいが、さまざまな工夫により、都市の中での貯留効果について市町と協力して進めていきたい。(相川)
- 川だけではなく、上流の山の浸透性、治水能力についても考慮していきたい。(井上)
- メニューを具体化しづらいと思うが、「被害対象を減少させるための対策」が重要だと思う。(青木)

◆時瀬地区置土実験

- 置土により矢作古川の流量が減ってしまうようなことは注意していただきたい。(青山)
 - ▶ 調査(モニタリング)を継続して実施している。万一異常堆積した場合は、掘削除去などの対策を行うことから、流量が減ることはないと考えている。(事務局)
- 置土した場所の下には、堰やダムがある。流域全体としての土砂管理という点で、矛盾があるかと思う。堰やダムがあるのに、海までの土砂供給は難しい。海まで土砂を直接運ぶほうがよいのではないか。(鈴木)
- 省エネ対策を講じた上で、海まで土砂を運ぶ考え方に切り替えたほうがよいのではないか。(高橋)
 - ▶ できるだけ自然の力を借りて土砂を流すことを考えている。運搬する場合、経費が膨大となるなどの課題がある。その他、有用な方法がないか検討している。(事務局)
- 目指すべきは、「流域治水」というより「流域管理」だと思う。川は、治水だけではなく、利水もあり、土砂や栄養塩を、海に持っていくという役割も担っている。(近藤)
- 適正な洪水がないと、土砂は下流に流れない。つまり、土砂はあまり移動しないと思う。(近藤)
- 水田による貯留機能が必要なのは上流であり、下流にあっても意味がない。水田貯留は豊田市街地よりも上流で考えなければいけない。(近藤)
- ダムの底にたまった栄養塩やヘドロは、サイフォンなどで取り出して下流に流す方法があると思う。(高橋)
- 矢作川のはものは矢作川で賄っていく工夫、新しいシステムを考えていくとよい。(高橋)

今後の流域圏懇談会の予定

■第48回海部会WG 日時：令和3年10月12日(火) 14:00~16:30

場所：西尾市役所 5階 53ABC会議室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。





発行日：令和3年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第48回海部会WGを開催しました！

10月12日(火)、第48回海部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。今回は、豊川河口の海岸におけるマイクロプラスチックと生物の状況、栄養塩負荷量と漁業生産の関係、干潟・浅場の再生について話題提供をいただき、意見交換を行いました。

日時：令和3年10月12日(火) 14:00~16:30

場所：西尾市役所本庁舎 5階 53ABC会議室

参加人数：27名(内オンライン参加7名) *事務局を含む



◆主な活動内容

1 話題提供①(矢作川環境技術研究会 野田賢司氏)



矢作川環境技術研究会の野田賢司氏より、「海岸・清掃と生き物調べ学習会(2021 夏季・海岸清掃の部)結果報告」として、豊橋市前芝海岸における清掃活動の状況、生息するハマグリとマイクロプラスチックの関係等について報告していただきました。報告の主な内容は以下の通りです。

- ・16名の市民が参加した学習会で収集した海岸ごみは39.5kgで、プラスチックごみが多く含まれた。過去の渥美半島・西の浜での清掃活動でも、マイクロプラスチック、メソプラスチックなどの海岸ごみが多く見られた。
- ・潮干狩りで採れたハマグリに擬糞に含まれるマイクロプラスチックを分析し、文献からの計測データ等と比較しながら、マイクロプラスチックが生物に与える作用等について考察した。
- ・海岸清掃によりマイクロ化するプラスチックを未然に防ぐことが重要と考えられる。そして、プラスチックの3Rの取り組みとともに、川や海への流出・移動・堆積を防止する徹底管理の気運が高まることを期待したい。

2 話題提供②(伊勢・三河湾流域ネットワーク 井上祥一郎氏)



伊勢・三河湾流域ネットワークの井上祥一郎氏より、「課題：栄養塩負荷量と漁業生産の関係 水質総量規制は漁業生産の減少要因か？」をテーマに、日本陸水学会(令和3年9月22日 東京)での発表内容について報告していただきました。報告の主な内容は以下の通りです。

- ・海で窒素・リンが不足し、漁業生産が減少していることについて、陸水学研究からの見解を聞いてみたいと思った。
- ・ノリ養殖には、窒素100 μ g/l、リン10 μ g/lが必要だが、足りているところもあれば足りないところもある。
- ・西三河のり研究会の資料ではプランクトン細胞数も調べている。小型鞭毛藻類の卓越が続く記録もある。
- ・西尾次世代産業地区開発計画における採水データ。アサリは水産三種で、最も栄養濃度が高いところを好む。ハマグリは水産一種なので、栄養が少ないところを好む。漁協としてはアサリが採れる栄養濃度がほしい。
- ・佐賀県サルボウ資料。二枚貝の適正餌料はケイ藻。二枚貝が不在になると、ケイ藻は窒素・リンを取り合うため、ノリの色落ちが発生する。よって、ノリとアサリの両方いる海が、「豊かな海」と思う。
- ・三河湾の環境サイトの規制レベルと、水産的なノリ、魚介類の要求水質との整合性を議論する必要がある。
- ・水産ではケイ藻を重視するので、リン供給に加えて、ケイ酸供給にも着目してほしい。

3 話題提供③(愛知県水産試験場 青山裕晃氏)



愛知県水産試験場の青山裕晃氏より、「ダム堆積砂を利用した三河湾における干潟・浅場の再生」をテーマに、三河湾における干潟・浅場の現状、愛知県の取組等について話題提供していただきました。報告の主な内容は以下の通りです。

- ・矢作川・豊川中流域の栄養塩は、1995年あたりがピークで、最近ではほぼ半減している。栄養塩が減った要因は、下水道整備が進んだこともあるが、農業分野での化学肥料の使用が減ったことも関係していると思われる。
- ・矢作ダムの堆砂量は容量を越えている状態で、ダム管理にも支障が出ている。
- ・国土交通省と愛知県では、ダム砂を利用した干潟・浅場の造成に向け、室内実験や海域における実験・調査を実施している。その結果、アサリの稚貝・成貝が生育するための干潟・浅場の構造や底質の粒度等の条件が明らかになった。
- ・愛知県では、アサリ資源回復のため漁場に粒径の粗い碎石を撒く「碎石覆砂」の技術開発に取り組んでおり、満足のできる漁獲量を得ている。今後も、碎石覆砂の成果普及に努めていく。
- ・愛知県と国土交通省は、矢作川中流の鵜の首で出た砂を三河湾に運び、干潟を造成している。矢作川中流の砂の粒は海の砂に比べて大きく、アサリの生育に適している。

4 三河湾大感謝祭の開催方針について



10月24日に開催される三河湾大感謝祭について、2年前の碧南市での開催報告を参考に、今回の出展内容や発信する情報等について話し合いました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●話題提供① (矢作川環境技術研究会 野田賢司氏)

- ・貝の中にもれなくマイクロプラスチックがあるという密度と考えるとよいか? (青木)
 - ▶ 典型的なものしかカウントできていないが、驚くほどマイクロプラスチックが貝の中に存在する。(野田)
- ・貝の内部にもマイクロプラスチックが相当あり、それを人も食べているということになる。(石田)
- ・釣り針や釣り糸の問題。マナーなどの教育はやらないといけない。(井上)
- ・海岸でプラスチックごみを拾うことは、貝類のプラスチック摂取量を減らすことにつながるのかと思う。(青木)

●話題提供② (伊勢・三河湾流域ネットワーク 井上祥一郎氏)

- ・豊川浄化センターで平成 29 年度からリンを増やす実験をやっている。環境基準のぎりぎりまでリンを放流する試験を行った。ノリについては、色調がよくなったという結果が出た。今年の西三河のアサリはよく採れており、明るい兆しが出てきている。(柴田)
- ・リン放流を平均的にコントロールすれば濃度を上げられると思う。今のコントロールが限界なのか? (青木)
 - ▶ 管理している下水道の話ではぎりぎりまでがんばっているとのこと。きれいな海と同じ環境基準となっていることが、放流における障害になっている。(柴田)
 - ▶ 内湾域について、環境省で環境基準の見直し、それに付随する監視方法の検討が行われていると聞いている。(石田)
- ・「海をきれいにする」ということの実質的な部分が曖昧のまままき続けていると感じている。三河湾の赤潮や貧酸素化がひどくなった要因として、陸域から流入する栄養分の他に、入江や浅瀬の埋め立ても要因と考えられる。(石田)
- ・最近の三河湾は、赤潮や貧酸素化は改善されてきた。ノリの養殖をみると、圧倒的に栄養不足となっている。また、稚貝は大量に着底するが、冬期にほとんど死んでしまう。栄養不足、餌不足が発生していると思われる。(石田)
 - ▶ 場を造りながら、餌もある程度バランスよくしてやるというのが、行きつくゴールかと思う。(青木)

●話題提供③ (愛知県水産試験場 青山裕晃氏)

- ・海の栄養と、干潟・浅場を造ることは両輪と考えている。干潟・浅場を造成するにあたり砂をどうするか。昨年度は、鵜の首と矢作ダムの砂を使って試験的な造成を行った。(柴田)
- ・川からの砂の供給について、今回、順調に進んでいるようだが、その要因にはどのようなことがあるのか? (青木)
 - ▶ 国交省事業で、河川を大々的に整備していく計画がある。矢作川についても、それなりの土砂が出てくるのが期待される。今回は、その一部を海まで運んでいただいたことでできたと思う。(柴田)
- ・小さい砂、大きい砂が混ざったほうがアサリにはよい。そのような砂は川砂にある。(石川)
- ・ダムに溜まった砂をダンプで海に運ぶなど。矢作川の恩恵を考えれば、そのための税金を取ってもよいと思う。(高橋)
- ・流域治水とは、流域全体で、本来川が持っている機能、海を豊かにする機能を考えるということ。気を付けないといけないのは、三河湾は何年もかけて議論するような状況ではないこと。その時間感覚をもつべきと思う。(近藤)
- ・農業系の土地利用が変わっている。上流のほうは、山地も含めてどうなっているのかを注目してほしい。(野田)
- ・干潟造成へのスラグの使用を実験したことがある。産業廃棄物のスラグを使うことは水産ではどうなのか? (青木)
 - ▶ スラグについては水産試験場で実験したことがある。水槽ではアサリも着生し、好成績だったが、海水に入れるとコンクリート状になってしまい、造成材には使えないことが判明した。(青山・石田)

●三河湾大感謝祭の開催方針について

- ・三河湾は、水産が危機的な状態にあること、目標は「豊かできれいな海」であることを出したほうがよい。(井上)
 - ▶ 「豊かできれいな海」をクイズ形式にして、三河湾の現状を知ってもらうなど。(中田)
 - ▶ 「アサリは 10 年前に比べてどうか」のようなクイズを出すもよい。(青木)
- ・魚とか海の生き物を展示するのはどうか。(高橋)
 - ▶ パネルだけではなく生き物など何かモノがあったほうがよい。今日の意見を踏まえて検討してみる。(石川)
 - ▶ コロナ対策ということで、タッチプールができるのかどうかは気になるところ。主催者に確認する。(中田・石原)



今後の流域圏懇談会の予定

■次回の海部会 WG まとめのお会 (日時) 令和3年 12月 14日 (火) 14:00~16:00 場所: 西尾市役所

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



発行日：令和4年1月
編集・発行：矢作川

◆第13回海部会まとめの会を開催しました！

12月14日（火）に、第13回海部会まとめの会を、新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。今回は、令和3年度の活動成果を振り返るとともに、次年度の活動目標・活動計画について話し合いました。

日時：令和3年12月14日（火） 14:00～16:00
場所：西尾市役所会議棟2階 第4会議室
参加人数：18名（内オンライン参加2名） *事務局を含む



◆主な活動内容

1 今年度のふりかえりについて

設定した4つの課題に関する今年度の活動状況について、報告しました。主な報告事項を以下に記します。

◆「ごみの問題」に関する活動進捗報告

- ・7月31日に開催された市民部会主催のマイクロプラスチックに関する公開講座に、海部会より13名が参加し、最新の情報を共有した。
- ・8月4日の海部会WGにおいて東幡豆海岸を訪れ、漂着ごみの観察やごみ問題の現状について、話し合いを行った。

◆「豊かな海の再生に向けた取り組み」に関する活動進捗報告

- ・吉田漁業協同組合の石川組合長より、窒素・リンの計測結果、アサリ・ノリの現状について、説明いただいた。
- ・東幡豆漁協の石川組合長より、干潟に生息する生き物について、西三河野鳥の会の高橋氏より、東幡豆海岸に生息する鳥類について説明いただいた。

◆「海と人の絆再生」に関する活動進捗報告

- ・矢作川環境技術研究会の野田氏より、「一色干潟観察会」や「海岸清掃と生き物調べ学習会」など海に関わる活動内容について、説明いただいた。
- ・伊勢・三河湾流域ネットワークの井上氏より、日本陸水学会第85回東京大会における栄養塩負荷量と漁業生産の関係に関する発表内容について、報告いただいた。

◆「土砂の問題」に関する活動進捗報告

- ・国土交通省豊橋河川事務所より、時瀬地区における置土実験の状況について報告した。
- ・愛知県水産試験場の青山氏より、三河湾における干潟・浅場の現状、愛知県の取り組みについて報告いただいた。

2 次年度の活動目標・活動計画の設定

これまでの活動成果や課題をふまえ、次年度の目標を設定し、話し合いを行いました。話し合いで出た主な意見や提案は以下の通りです。

- ・「ごみの問題」「豊かな海の再生に向けた取り組み」「海と人の絆再生」「土砂の問題」の4課題を進めていく。海部会の課題は、川部会・山部会とも関連することから、伊勢湾も視野に入れた情報共有を進めていく。
 - ごみの問題：広いスケールで発信しながら、各種活動を関連させて進めていく。
 - 豊かな海の再生に向けた取り組み：管理運転の方法を検討しながら、豊川のアサリ調査の結果等を参考に、現在実施している活動を継続していく。
 - 海と人の絆再生：生活や環境など新しい視点の活動について、FW等も活用しながら検討する。
 - 土砂の問題：今年度の検討で、土砂対策の必要性が明らかになったことから、引き続き検討を進めていく。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度のふりかえり、次年度の活動目標・活動計画の設定

◆ごみの問題

- ・ごみの問題は流域全体の問題。公開講座でごみの議論をできたことはよかったと思う。(近藤)
- ・ごみ問題を対外的にアピールする時は、三河湾単位ではなく、伊勢湾全体の問題として発信する必要がある。(近藤)
- ・海ごみの収集等の活動は、何かイベントの一環として開催できないかといつも感じる。(青木)

◆豊かな海の再生に向けた取り組み

- ・栄養塩を出すようになってアオサが増えた。鳥はアオサに付いた虫を食べるので、もう少し出てくるとよい。(高橋)
 - ▶ 陸に近いほど栄養塩があり、沖には栄養塩がない。三河湾全体に栄養塩があるというわけではない。(石川)
- ・豊川では、海藻は増えている。アサリも育っており、ハマグリもよく育っている。(野田)
- ・豊川のほうで、干潟について活動している団体がある。その団体と意見交換するのもよい。(石川)
 - ▶ 豊川の六条干潟については、「六条干潟を守る会」が活動している。(石田)
- ・海の栄養について海部会で毎回議論しているが、山部会・川部会・市民部会でも共有すべき事項と思う。(近藤)
 - ▶ 山からも栄養は流れてくる。豊かな海は、山・川・海の課題として考えなければいけない。(高橋)
- ・ノリ・アサリに関連して、海の栄養の問題は、海部会のメインテーマであることから、来年度もやっていく。(青木)
- ・アサリに関して、豊橋河川事務所の豊川自然再生で調査が実施されている。来年度に話題提供をお願いする。(青木)
- ・「豊かな海」を目指すには、栄養塩が減少しすぎていることを伝えていく必要がある。(石田)
- ・海の豊かさ、多様性の欠如は、伊勢湾全体の問題であり、それが本当に現実化していると思う。(近藤)
- ・農業の人たちの参画が少ない。そのあたりも含め、流域を考えていかなければいけないと思う。(井上)
- ・リンは地下水の湧水からも供給されていることから、湧水が減れば地下水からの栄養塩の供給も減少することになる。それは、山地における雨水の浸透がどうかという問題にも広がっていく。(井上)

◆海と人の絆再生

- ・海の環境と生活について、地域づくりのような形で何か部会で取り組めないかと思う。(青木)
 - ▶ 環境活動を楽しい活動として、交流の場として進めていきたいと考えている。(三ツ松)
 - ▶ 環境、アートなどいろんな視点で水辺や海を体験してもらおうことができればと思う。(近藤)

◆土砂の問題

- ・水産試験場の取り組みは前進している。治水関連の話もある。土砂に対する考え方も変わってきていることから、ダム見学の時にそういう話でもできたらと思う。(青木)
- ・流域にある工場や住民から税金を取って予算を確保し、砂を海に運ぶような提案もよいかと思う。(高橋)
 - ▶ 確かに予算のところがネックになっている。膨大な金額となるので難しいところがある。(佐藤)
- ・豊かな海と土砂の問題はリンクしている。セットで考えていかなければいけないと思う。(青木)

◆全体

- ・栄養塩、ごみ、土砂の問題は、どこも同じように当てはまる。その意味でも、情報発信していくことは、問題を共有していくことにもなるのでよいと思う。(青木)
 - ▶ ごみや栄養塩の問題について、継続して問題意識を持つことは重要。情報発信していかなければいけない。(近藤)
- ・矢作川流域圏懇談会という会があることすら知らない人が多いと思う。発信、周知、PRが足りないと思う。(石川)
 - ▶ 外への発信について、10年誌を活用しながら、流域連携イベント等に参加するなど、かなり発信はしてきている。特に、コロナの状況の中で公開講座を2回実施したことの効果は評価するべきと思う。(近藤)
 - ▶ 海部会・山部会・川部会など流域圏懇談会内での情報共有が意外と進んでいないと感じる。(近藤)
 - ▶ オンラインのやり方が普及してきている。今後は、オンラインも活用して情報発信していくとよい。(高橋)
 - ▶ オンラインを活用しながら、対面での議論や現場の視察などもしっかりやっていくことが重要と思う。(近藤)
- ・海の栄養の話など海部会で議論しているテーマについて、公開講座やシンポジウムをやるとよいかと思う。(近藤)
 - ▶ 海部会として重要なテーマなので、みなさんに聞いていただく場をつくることはよいと思う。(青木)
 - ▶ ミヶ根山から下る河川を矢作川に見立て、トンボロ干潟まで行くというイベントはできると思う。(野田)
 - ▶ まず海に興味をもってもらって、そこからいろんな話しをしていくというのもよいかと思う。(高橋)

今後の流域圏懇談会の予定

■第11回全体会議 (日時) 令和4年2月21日(月)

場所: オンライン+スタジオ会場(崇化館交流館)のハイブリッド形式

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

